

2020年度

「学生による授業評価アンケート」

報告書

立教大学

2021年 9月

これまでに発行した『学生による授業評価アンケート報告書』は、大学教育開発・支援センターの Web サイトより閲覧いただけます。下記 URL または QR コードへアクセスし、「刊行物・情報公開」から「学生による授業評価アンケート報告書」を選択してください。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>



はじめに

総長 西原 廉太

立教大学の「学生による授業評価アンケート」は2004年度から開始され、すでに16年に亘って運用されています。この間、「学生による授業評価アンケート」は進化を重ねていますが、その基本的な目的は変わることはありません。それは、教員が自らの授業改善に資するための基礎的データであり、学生の授業への参与度、姿勢、期待を知るための手がかりであることはもちろん、学生たちがアンケートに回答することを通して、学生に授業履修への積極性と責任意識の醸成を促すこと、また、さらには、学部・学科のカリキュラムの有効性を測定するための資料であり、ひいては、立教大学のあらゆる教学改革方針・施策を決定していくための重要なデータとしての役割が期待されています。

2020年度は、想定もしていなかった新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックという事態に直面し、本学の授業運営も大変な困難を強いられました。学生、教職員の命と健康を守ること、同時に、学生たちへの学びの提供を止めないために、基本的にはほとんどの授業を急遽、オンラインで展開することになりました。しかしながら、教職員のみなさんの文字通り昼夜を問わないご尽力の結果、2020年度も年間を通しての授業運営ができました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

「学生による授業評価アンケート」も従来のマークシート方式での実施はかないませんでした。2020年度秋学期は「立教時間」を活用したWeb方式で行われました。従来からWeb方式の導入は検討されていましたが、このWeb化により、今後「授業評価アンケート」はさらなる進化を遂げることは間違いありません。現在、部長会におきましても、コロナ後における良質な遠隔授業の活用・展開を具体的に検討する重要性は高いと考え、「第二次遠隔授業活用検討ワーキンググループ」を設置し、各授業形態（対面、対面ミックス、オンライン、オンデマンド）の教育効果を検証し、今後のプロアクティブな授業方法についてさまざまな角度から議論していただいています。その際に、この「学生による授業評価アンケート」から多くの重要な論点が抽出されることとなります。

本学の「学生による授業評価アンケート」を特徴づけるものの一つは、その質問項目が、学生自身の授業への取り組み方、学生が授業から得られたものを中心に問うていることです。この質問項目の背景には、大学の授業というものが、教員からの一方的な知識の伝達ではなく、教員と学生のインタラクティブな営みであるという思想があります。私たちの授業とは、教員と学生が、知の礎の上に立ちながら、共に対話し、新たな意味や価値の発見に開かれていくダイナミックな現場です。そこでは教員もまた、「教えられ、変えさせられ、強められる」ことに気づかされます。

本報告書が、教職員のみならず、とりわけ授業の最も重要な当事者である学生のみなさんに読んでいただくことを期待しています。

目次

はじめに	
1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について	1
1-1 目的	1
1-2 「報告書」作成の基本的な考え方	3
1-3 「所見票」について	4
1-4 実施科目の選定方針	5
1-5 回答結果の全学的な活用に向けて	6
2. 授業評価アンケートの実施概要	7
2-1 実施方式	7
2-2 設問項目	7
2-3 各学部等の科目選定方針	11
2-4 実施科目数	13
2-5 実施期間	13
2-6 回答者数	14
2-7 「所見票」の公開	14
2-8 任意実施科目	14
3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック	15
3-1 科目担当者	15
3-2 学部等	15
4. 学部等総評	20
4-1 文学部	21
4-2 経済学部	24
4-3 理学部	26
4-4 社会学部	28
4-5 法学部	31
4-6 経営学部	34
4-7 異文化コミュニケーション学部	37
4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	39
4-9 観光学部	41
4-10 コミュニティ福祉学部	42
4-11 現代心理学部	45
4-12 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	48
4-13 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	56
4-14 学校・社会教育講座	61
5. 2020年度のまとめと今後の展望	64
6. 2020年度集計データ（資料編）	66
6-1 回答者数・回答率	66
6-2 学部等別設問項目別平均値・回答割合	67

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について

2020年度における「学生による授業評価アンケート」は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、講義科目を中心として全面的にオンライン授業が導入されたことに伴い、従来のマークシート方式によるアンケート実施が困難となった。

このため、春学期は対面配布を前提としたマークシート方式による「学生による授業評価アンケート」の実施を中止し、オンライン授業全般における学生の学修状況を把握することを目的とする「オンライン授業に関するアンケート」を2020年5月および7月にGoogleフォームを利用したWeb方式にて実施した（結果概要は大学教育開発・支援センターホームページに掲載）。この後、秋学期は2021年度よりeポートフォリオシステム「立教時間」において本格稼働させる計画であったWeb方式によるアンケート実施を急遽前倒して、個別科目を対象とする「学生による授業評価アンケート」をWeb方式にて実施した。

このWeb方式による実施にあわせてアンケートの設問項目についても、2004年度以来の本学における「学生による授業評価アンケート」の実施目的を踏襲することを確認しつつ、従来のマークシート方式の設問項目から見直しを行い、オンライン授業向けの視点も取り入れて改訂が行われた。また、この改訂によりアンケート結果の集計方法も従来から一部追加した様式が加わることになった。この他にも、アンケート実施最少人数の設定、教員が執筆する所見項目の見直し、教員個人の希望による任意科目の実施、全学共通科目言語系科目の参画、などについても新たな対応として取り組まれることになった。

本年度の「報告書」は、このような状況のもとに本学において初めてWeb方式により実施することになった2020年度秋学期「学生による授業評価アンケート」の結果に基づく内容となっている。お読みいただくにあたり、留意をお願いしたい。

まず、本項では、本学における「学生による授業評価アンケート」の実施概要について取り上げる。

前半の1-1「目的」、1-2「報告書を作成する基本的な考え方」、1-3「所見票」では、2004年度の「学生による授業評価アンケート」の開始以来、これまで継承している本アンケート実施にあたっての基本的理念および方針について、同年度の「報告書」における当該項目の記載内容を転載することによって確認する。

後半の1-4「実施科目の選定方針」、1-5「回答結果の全学的な活用に向けて」では、これらの基本的理念および方針を受けて、2004年度から当該年度までのアンケート実施の経過や変更点について記載する。

1-1 目的

本学における全学規模の学生による授業評価アンケートは、2002年7月10日に総長に提出された「全学FD検討委員会答申」に始まる。その中で、本学にとっての最重要FD課題として次の3点が挙げられている。第一に「教員における授業力の向上」、第二に「カリキュラム編成の合理化」、第三に「成績評価の厳正化」である。そして、その中でも緊急性がもっともあるとされたのが第一の課題であり、その中で「授業力向上に向けての具体策」のひとつとして挙げられていたのが「学生による授業評価の制度的実施」である。それを受

けて、2002年12月18日付け文書「FDについて—学生による教育評価アンケートの2003年度実施に当たって—」の中で総長は、敢えて「教育評価」という言葉を用い、「個々の科目の授業やその担当教員への評価をこえて、広く本学の教育について、学生の評価を参照したい」と述べ、「学生による教育評価アンケート」をできる限り早期に実施したいとの方針を明らかにした。

それを受けて直後の2002年12月21日には早くも全学教務委員会FD専門部会の第1回部会が招集され、年度をまたいで検討が続けられた。その過程で、2003年度実施は見送られ2004年度実施を目標とすること、施設その他の教育条件一般を問うアンケートの前に、授業そのものに目標を絞って問うことなどの合意が形成され、「学生による授業評価アンケート」を行うことが決まった。そして、具体的アンケート項目作成作業が開始され、他大学のものをも参照しつつも、三つの独自案にまとまってゆき、並行して行われていたアンケートの目的や実際の実施方法などの検討結果とも連動しながら、最終的にひとつの案に集約されていった。その結果は部長会に報告され、了承を得て、その後、各学部教授会とのやり取りがあり、2003年の秋に2004年度前期から「学生による授業評価アンケート」を実施することが正式に決定した。そして、2004年度4月から「学生による授業評価アンケート実施委員会」が立ち上げられ、前期と後期に実施された。

その実施の目的は、部会における議論の結果、以下の点にあると考えられるにいたった。

- ① 教員が自らの授業改善を目指す自己研修の資料を得る。
- ② 教員同士が授業に関して相互研修をおこなう機会を提供する。
- ③ 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ④ 学生の授業への期待のありかを知る資料を得る。
- ⑤ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑥ 学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る。
- ⑦ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

以上である。

要するに、本学の「学生による授業評価アンケート」は端的に言って、個々の教員による授業を、学生がより充実して学習を進め大学としての教育力が今より一層効果的に機能することを目指して改善し、その結果として学部・学科としての教育力をも増進することを唯一の目的とする、ということである。そうして、学生をも巻き込んで、本学が知的に活発で、創造性に富み、常に先進的に新しい知を発信し、それに基づく生き方を常に提案し続ける力を保持することができるようになることを最終目的とする。

それに対して、場合によっては教員の活力を削ぐことになりかねない教員管理の視点は厳しく排除される。大学は教職員と学生が相互に自己管理することを前提に、自由に精神活動をおこなう場である。特定の目的のために教職員ならびに学生を管理し、特定の方向へ向けるべく力を加えることは、大学本来の知的創造力を失わせ、ひいては大学が本来持っているはずの社会的役割を放棄し、その負託に答えられなくなることを意味する。その意味で、この「学生による授業評価アンケート」結果のデータは特定の意図を持って処理され、一律の基準の下に評価されることはない。それゆえに、集計データの統計的処理はアンケート対象になった個々の教員に任されることになった。それが所見票に表現されるのである。

このアンケートは大学としての教育力向上を目的としておこなわれるので、学生の自覚

を促すことも期待されている。そのことは、一朝一夕に実現させることは難しいかもしれないが、学生たちの評価アンケート結果に対して、各教員がそれぞれの学問的見識を持って所見票で答え、実際の授業に反映する努力が積み重ねられることによって、徐々に現実化してゆくであろう。現在の大学では学生の自主的活動が必ずしも本来期待されているほど十分でなく、大学生の学校生徒化が進んでいると一般に言われている。その中で、学生の主体的参加が教員との関係を変えるきっかけになることを直接に経験することで、学生の姿勢が変化することを期待したい。

さらに、アンケート結果、所見票が公表されることにより、教職員相互間、あるいは教員と学生との間で切磋琢磨する風潮が広まれば、大学全体として、個々の学問研究と教育の活動に根ざした種々の改善が期待される。カリキュラムはもちろん、組織の運営体制や施設なども、このアンケートを手がかりにその評価の俎上に載せられることになってゆくであろう。

この「学生による授業評価アンケート」が、大学の知的エネルギーを構成している教職員相互の関係や教職員と学生との関係、あるいは学生相互の関係などを揺り動かし、多様な観点から相互に力を及ぼしあう結果になることを、我々は心から期待したい。そして、そのことがやや動脈硬化が進行してきた大学という組織にも再び熱い血を通わせ、教職員も学生も本学に集うことこそがその熱い血の拍動を生み、学問に触れることが楽しくて仕方がないという状況を生み出すことを心から願う。

1-2 「報告書」作成の基本的な考え方

「学生による授業評価アンケート」は調査である限りその結果がまとめられなければならない。我々はそれを報告書という形で世に問う。この報告書はアンケート対象になった個々の授業が1-1で述べられた目的に沿って学生によって評価された結果を総体として、学部・学科ごとに、そして大学全体として、その教育力を評価し、成果の上がっていることに関してはその成果の意味を明らかにし、さらにその成功を維持するための方策を考え、改善が必要なことに関しては、その原因を究明し、その克服のための方法を構築する。そして次のアンケートにその改善努力の成果を問う。

この報告書の構成は以下のとおりになっている。

まず、(1)すでに述べたとおりこのアンケートの目的を明らかにする。その次に、(2)その目的に沿ったアンケート実施の概要を報告する。その上で、(3)統計処理上の技術的方針について、我々の考え方を明示し、データの性格を規定し、将来の調査をも視野に入れた分析方針を提示する。そして、(4)全学的な総評をおこなう。最後に(5)学部やその他の教育組織ごとの総評をまとめる。以上である。

この報告書はあくまで1-1のアンケートの目的に謳われている⑥学部・学科としてのカリキュラムの有効性を測定するための資料、および⑦大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を提供するためにおこなわれる。したがって、この報告書には個々の授業やその担当者、あるいはある学科の科目として特定できるような記述は記載されない。

それと同時に、この作業は全体としての③学生の学習姿勢を知るための資料、および④学生の授業への期待のありかを知る資料を得ることにつながる。授業に参加する学生たち自身の勉強に対する姿勢もアンケート項目に入っているため、それらについてはこの報告書

の中で、各所で触れられることになるだろう。

これらの目的達成を検証することを狙い、我々は報告書を作成する。ちなみに目的の①と②は次に述べられる所見票に示されるだろう。

1-3 「所見票」について

個々の科目のアンケート結果は、同じ科目の将来の開講の際に生かされるはずである。しかし、一方ではアンケートに答えた学生たちには、将来の授業では直接的にフィードバックすることはできない。そこで、個々の科目のアンケート結果についても、何らかの形で少なくとも当該学生たちには公開される必要がある、と我々委員会は考えた。その際には、単純にアンケート項目の集計結果だけを公開する方法と、それに対する教員の所見をも添えて公開する方法が考えられる。

我々は個々の科目担当者に、自分の科目についての自己点検・評価という意味でアンケート結果のデータを読んでもらい、「授業評価に対する担当教員の所見」、「自由記述欄に対する担当教員の所見」、「改善に向けた今後の方針」を書いてもらうこととした。この3つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果を帯グラフに表したデータを付したものを「所見票」と称した*1。そして、この所見票を学生に公開することにした。

所見票を書くことはアンケート対象教員にとって負担にはなる。しかし、我々は敢えて対象となった教員全員に所見票作成を依頼した。なぜならば、自分の授業についての学生による評価が出たならば、それについての対処を明確に行い、アンケートに協力してくれた学生たちに直接回答することも、授業担当者である教員の義務だと、我々は考えたからである。所見票はそのすべてが、学生に対して学内で公開されることになる。

所見票の狙いは以下の点にある。

- ① 教員がアンケート結果についてそれを直視し、自らの見解を発表する場を与える。
- ② 学内で公表されることによって、学生に直接回答する機会を与える。
- ③ アンケートに含まれる自由記述についてはデータ化できないので、教員の直接的コメントを通してその内容を明らかにすることを求める。
- ④ 改善に向けた明確な決意と工夫を書くことにより、次回アンケートとの比較を行い易くし、具体的授業改善の実現を可能にする。

以上である。

①については、教員側にも、もし学生からいわれのない不評や批判があった場合には、弁明する機会が欲しいとの声もあった。また、所見票を書けば、アンケート結果をつぶさに直視し、それに向き合って、自分に取り入れる契機とすることができる。さらに、データの多様な集計を当該教員に任せ、教員の必要に応じた分析を行い、納得の行く分析結果を出してもらうことにも意を注いだ。所見票はその結果を発表する場でもある。

②については、学生に対する直接回答であることを重視し、教員が自らの見解を自由に率直に表明しやすくするという趣旨で、公開は学内に限り、学生の便宜を考えて図書館に配置することにした*2。

③については、自由記述が単純にデータ化できないため、結果すべてを所見票に載せることはできない。また、記述内容によっては書き手が特定される場合もある。そこで、それを読んだ教員の責任でまとめてもらうことにして、教員所見にそのための欄を設けた。

④については、これを書くことでこのアンケートの目的で指摘された教員の自己研修を促すことになる。また、所見集が学内で公開されることから、学生以外にも同僚教員の目に触れる機会もあり、相互研修にもなることが期待される。

以上、所見票はこのようなことを期待して作られたのである。

*1 教員執筆項目は 2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、「授業評価に対する担当教員の所見」と「改善に向けた今後の方針」の 2 項目に集約された。このこととアンケートの Web 形式実施に伴い、2020 年度からの所見票は、二つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果のデータを付したものとなっている（p.18 参照）。

*2 現在は Web のみで公開

（以上、2004 年度報告書より抜粋・*は追記）

1-4 実施科目の選定方針

本学における「学生による授業評価アンケート」は 2004 年度にスタートし、2006 年度までの当初 3 年間は「講義科目を対象に 1 教員 1 科目」の原則で実施した。これにより、教員個々人の意識が高まり、授業改善の効果が上がったことは、各項目の数値が有意に上昇したことからも明らかである。

2007 年度には、スタート時に確認された目的のうち、「学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る」「大学として教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る」に比重を移し、実施対象科目に一部の演習科目を加えた上で、各学部・学科等の必要性により科目を選定する方式に切りかえた。2008 年度、2009 年度はこの方針を踏襲して実施した。

一方で、「学生による授業評価アンケート」開始当初から、アンケートは単年度ごとにその目的と実施内容を検討・決定するのではなく、数年度単位の中期的な計画に基づいて展開する必要性が指摘されており、その策定に向けて、継続的に議論を行ってきた。

2006 年度には、「1 教員 1 科目の原則による実施は、教員個々人の意識を高め、教員全員が自らの自己研修の資料を得る観点から、少なくとも数年に一度は必要である」との全学的合意がなされた（2007 年 1 月 25 日、部長会）。その後、他大学の実施状況調査を行うとともに、全学教務委員会および教育改革推進会議での学部等からの意見収集ならびに協議を経て、2009 年度の教育改革推進会議（2009 年 11 月 19 日）において、2010 年度以降の基本方針を以下のとおり決定した。

- ① 授業評価アンケートは毎年実施する。
- ② 「1 教員 1 科目」の原則による実施は、3 年に一度とする。
- ③ ②以外の年度は、「学部等の必要性に応じた選定」により実施する。

基本方針決定以降の、科目選定方針は以下の通りである。2010 年度は定められた基本方針に拠って、実施する初年度となり、上記②の「1 教員 1 科目」の原則により実施した。

- ・ 2010、2013、2016、2019 年度：「1 教員 1 科目」
- ・ 2011、2012、2014、2015、2017、2018、2020 年度：「学部等の必要性に応じた選定」

なお、2020 年度の各学部等における科目選定方針については、「2-3 各学部等の科目選定方針（p.11）」を参照されたい。

また、本アンケートはその性質から無記名で行われ、個人が特定される情報は教員・学部
に提供しないことを前提としてきたが、2020年度の教育改革推進会議(2020年10月1日)
において、履修登録者が4名以下の科目は実施対象外とすることを決定した。

1-5 回答結果の全学的な活用に向けて

本学は、従来、1-1に記載した目的に沿い、「学生による授業評価アンケート」の集計
結果を教員個人の授業改善や、学部等によるFDの基礎資料として活用してきた。しかし、
回答データを計量分析し、全学的なFDに活用するには至っていなかった。

そこで、2012年度10月に発足した大学教育開発・支援センター教学IR部会では、2015
年度に2013年度の回答データを用いた分析を実施し、「教員の授業に対する工夫や努力、
たとえば、各回の授業内容を明確に提示するよう意識するなどの取り組みによって、学生の
授業や学習に対する意欲は高められる」という知見を得、教育改革推進会議を通じて全学へ
報告し、共有した(詳細は、2015年度報告書に掲載)。

上述の知見を踏まえて、2017年度に行われた第1回「立教大学 教育活動特別賞」の選
定にあたっては、2016年度授業評価アンケートの一部の項目の集計結果を各学部等へ提供
した。各学部等からの候補者の推薦を受けて、最終的に34名の方々に賞を授与している。

2018年度は、受賞者の教育に関する優れた取り組みを共有するために、全学のFD活動
としてシンポジウムを開催した。

そして、2020年度からは、このような全学のFD活動をより推し進めていくために「学生
による授業評価アンケート」の運営主体について、全学教務委員会の下に組織されていた「学
生による授業評価アンケート」実施委員会を廃止とし、全学を対象としたFD・調査を担う大
学教育開発・支援センターが中心となり、教務部の協力を得ながら進める体制へ移行される
ことになった。これにより、同センターのTL(Teaching & Learning)部会では、本報告書
の作成や回答結果を活用したFDプログラムの企画を、教学IR(Institutional Research)部
会では、アンケート実施の企画やデータ集計・分析をそれぞれ担うことになった。

2. 授業評価アンケートの実施概要

本報告書において、「学部等」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座を示す。また、学部表示は科目開設学部等を示しており、回答者（学生）の所属ではない。

なお、これまで全学共通カリキュラム運営センターにおいては総合系科目のみ「学生による授業評価アンケート」の実施対象科目となっていたが、2020年度秋学期より、同言語系科目についても対象とすることになった。これにより本報告書における全学共通カリキュラム運営センターの表記は両者を含めて示している。

2-1 実施方式

2020年度春学期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためすべての授業がオンラインとなることが決定された。このため、従来どおりのマークシート方式による「授業評価アンケート」の実施を行うことが困難となったため中止となった。

2020年度秋学期は「立教時間」を用いた Web 方式による「授業評価アンケート」の実施が可能となり、この方式にて実施した。

2-2 設問項目

Web 方式への実施方式変更に伴い、また、オンライン授業である前提を踏まえ、従来の設問から以下の通り変更し、設問はすべて英語併記とした。

5段階による評価方式の設問が4、複数選択回答による設問が3、数値入力による設問が1、自由記述による設問が3の構成とした（p.8 参照）。設問の中には、必ずしも全科目には該当しないと思われるような設問もあるが、各設問項目の数値は、科目の特徴に照らして各科目担当者の裁量により解釈されるものとしている。

また、学部等によって独自の設問が設定できるよう、1学部あたり最大で6設問を設定できるようにした。2020年度は、経済学部（5設問）、理学部（4設問）、法学部（3設問）、異文化コミュニケーション学部（3設問）、現代心理学部（3設問）、全学共通カリキュラム運営センター（総合系科目2設問・言語系科目5設問）が学部等による設問項目を設定した（pp.9-10 参照）。

2020年度「授業評価アンケート」設問項目（全科目共通設問）

選択肢は数値入力、複数選択の設問以外は 5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう
思わない、1:そう思わない、の5件法となります。

(英文選択肢)5.Strongly Agree 4.Agree 3.Neither Agree nor Disagree 2.Somewhat Disagree 1.Disagree

I 学生の学習姿勢 My participation in this course
I 1 この授業に積極的に参加した I actively participated in the lessons.
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に） ⇒数値による入力 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course. ⇒ Fill in how many hours.
II 教員の授業改善に向けて To improve instructors' teaching
II 1 各回の授業内容は明確だった The content of each lesson was clear.
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった The instructor's way of communicating was easy to understand.
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画等の映像視 覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that you thought good about this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 4 II 3 以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 If you have any other good comments or opinions about this course, please explain.【Free writing】
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画等の映像視 覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that can improve this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 6 II 5 以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 If you have any other improvement comments or opinions about this course, please explain. 【Free writing】
III 学生が授業に期待するもの Student's expectations of this course
III 1 この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】 ①自分にとって新しい考え方・発想、②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 ③自分で調べ考える姿勢、④学問的興味、⑤上記にあてはまるものがない Through this course I learned/acquired the following.【Multiple answers allowed】 ①New concepts and new ways of thinking ②Basic academic knowledge related to the field taught in this course ③A positive attitude towards doing my own research and analysis ④Academic content which was suitably challenging ⑤N/A not applicable
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. 【Free writing】
III 3 この授業を受けて満足した I was satisfied with this course.

2020年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（1/2）

学部等	IV 「学部等による設問」	
	有無	(6項目まで。1項目は10～30字程度)
文学部	無	
経済学部	有	<p>1) (基礎ゼミナール 2) 経済文献を読む力がついた 2) (基礎ゼミナール 2) レジューメやレポート作成の力がついた 3) (情報処理入門 2) 表計算ソフト(Excel)の応用力が身についた 4) (情報処理入門 2) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた 5) (情報処理入門 2) WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた</p> <p>1) (Pro-Seminar 2) I gained the ability to read economic literature. 2) (Pro-Seminar 2) I gained the ability to create resumes and reports. 3) (An Introduction to Information Processing2) I have acquired the ability to utilize spreadsheet software (Excel). 4) (An Introduction to Information Processing2) I have acquired the ability to create presentation materials in Power Point. 5) (An Introduction to Information Processing2) I have acquired the ability to collect economic and statistical data from the web.</p>
理学部	有	<p>1) シラバスに沿って授業が行われた 2) 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた 3) (1年次必修科目のみ) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた 4) (必修科目のみ) 授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった</p> <p>1) The instructor conducted lessons based on the syllabus. 2) The instructor was willing to answer my questions/inquiries. 3) (This question is for the freshman's compulsory subjects only.) The instructor gave us lessons with due consideration of the difference of lesson styles between high school's and university's. 4) (This question is for the compulsory subjects only.) We solved problems through group works (i.e., working out exercises together, etc.) during the lessons.</p>
社会学部	無	
法学部		<p>1) このオンライン授業は受けやすかった 2) このオンライン授業で出された課題の量は適切だった 3) このオンライン授業について改善すべき点があれば記入してください(自由記述)</p> <p>1) The online lessons were easy to understand. 2) The amount of assignments in this online course was appropriate. 3) Is there anything that can be done to improve this online course?</p>
経営学部	無	
異文化コミュニケーション学部	有	<p>1) (宗教と文化、カルチュラルスタディーズ特論、人間環境特論、間文化研究) この授業の受講者数は適切だった 2) (宗教と文化、カルチュラルスタディーズ特論、人間環境特論、間文化研究) レジューメやレポート作成の力がついた 3) (Seminar in English) 異文化コミュニケーション学部の専門領域(専門的な学び)に対する興味・関心が増した</p> <p>1) The class size was appropriate. 2) The course developed my ability to write academic papers and prepare handouts. 3) The course has increased my interest in the areas of study the College of Intercultural Communication covers.</p>

2020年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（2/2）

学部等	IV 「学部等による設問」	
	有無	(6項目まで。1項目は10～30字程度)
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	無	
観光学部	無	
コミュニティ福祉学部	無	
現代心理学部	有	1)この授業の受講者数は適切だった 2)【オンラインで受講した場合のみ対象】このオンライン授業の運営は適切になされた 3)【対面式で受講した場合のみ対象】この授業の設備・環境に満足している 1)The number of students in this course was appropriate. 2)If you attended this course online, please answer this question: This online course was appropriately organized. 3)If you attended this course on campus, please answer this question: I am satisfied with the facilities and learning environment of this course.
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	有	1)【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた 2)【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた 1)[For Introduction to Academic Studies] Through this class, I felt the difference between high school and university learning. 2)[For Introduction to Academic Studies] This class helped to acquire proactive attitude towards university learning.
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	有	1)宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った 2)宿題や課題へのフィードバック、質問に対する対応が十分になされた 3)授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた 4)この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】 ①読む力、②書く力、③聞く力、④話す力、⑤プレゼンテーションをする力、⑥ディスカッションをする力 5)その言語の学習を継続したいと思うようになった 1) The homework and assignments were useful for understanding course content. 2)Feedback about homework and assignments, and responses to questions were sufficient. 3)Content covered in previous lessons was reviewed sufficiently. 4)What abilities did you improve through this course? (Multiple selections possible) ①Reading ability, ②Writing ability, ③Listening ability, ④Speaking ability, ⑤Presentation ability, ⑥Discussion ability 5)I feel like continuing to study this language.
学校・社会教育講座	無	

2-3 各学部等の科目選定方針

実施対象科目は、学士課程における2020年度秋学期（秋学期1は除く）および通年開講科目である。

2020年度は、基本方針により「学部等の必要性に応じた選定」により実施した（詳細はp.20参照）。各学部等の選定方針は、下表の通りである。

なお、実施対象科目は、これまで専門演習、実験、集中講義や実技を伴う科目、全学共通科目の言語系科目を除外してきたが、2020年度秋学期から「立教時間」によるWeb方式を採用したことによって、設問項目の改訂が行われたことや、実施上限科目数、教室内でのマークシート用紙の配布等の制約が解消されたため、これらの除外科目についても含めることが可能となった。

学部等	科目選定方針
文学部	(1) 各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目 ①1年次必修科目 ②1年次で履修可能な科目 ③2年次必修科目 ④2年次で自動登録となる科目 (2) 文学部基幹科目 (3) 各学科・専修で必要と認める科目
経済学部	(1) 「講義科目1教員1科目」の調査は実施しない (2) 共通シラバスを用い、授業の目的及び内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目及び積み上げ方式の1年次科目についてアンケートを実施する
理学部	(1) 数学科では新カリキュラム（2010年度より移行）の有効性を検証するために、新カリキュラムにおける新規に設計した必修科目・選択必修科目について、定点観測（毎年、同じ科目で調査）を行う (2) 物理学科では原則として複数担当科目以外の全ての講義科目を選定する。経年変化を見るために、なるべく毎年同じ科目について、アンケートを実施する。ただし、講義は受講者が少ない場合が多いので、担当者の希望がある場合のみ実施することにする (3) 化学科では原則として、必修講義科目ならびに選択講義科目（複数教員担当科目を除く）の経年変化を調査するために、毎年同じ科目についてアンケートを実施する (4) 生命理学科では授業評価に対する改善策の具体的効果を継続的に検証するために、2020年度も同じ科目についてアンケートを実施する。なお、教員の希望により追加する科目もある (5) 共通教育科目では、受講者の少ない科目、ゼミナール科目を除いて実施する
社会学部	(1) 必修科目はすべて実施する (2) 「講義科目」については、科目の種類を問わず、なるべく「年間1教員1科目」となるように選定作業を行う
法学部	(1) 3年に1回全教員（専任・兼任）について、1教員1科目を原則に行う (2) (1)を行わない年度については、本学で初めて授業を開講する教員、およびアンケートの実施を希望する科目を対象に行う ※2020年度は(2)に該当する
経営学部	「演習」を除く全科目で実施する。ただし、科目特性を考慮して、独自にアンケートを実施する科目については、当該アンケートの実施対象に含めない
異文化コミュニケーション学部	(1) 新カリキュラムの検証 (2) 全カリ英語教育新カリキュラムの導入および24年度学部カリキュラム改編を視野に入れた必修・基盤科目の見直し
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	演習系科目は実施対象外とする

学部等	科目選定方針
観 光 学 部	(1) 原則として学部方針によって選定する2年間のうちに全教員1回1科目で実施する (2) 演習科目は対象としない (3) 複数教員担当科目は対象としない (4) 集中講義は対象としない
コミュニティ福祉学部	(1) 学部専任教員（助教含む）1科目以下の実施を原則とする (2) 資格科目を優先する (3) 演習科目は対象外とする (4) 昨年度実施科目を優先する
現 代 心 理 学 部	(1) 学部専任教員が担当する「学部統合科目（旧カリ「学部共通選択科目）」全科目 (2) 学部専任教員が担当する「初年次教育科目」 (3) 学部専任教員が担当する「講義科目」及び「共通シラバスにより展開される一部の科目」 なお、「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は、原則として実施対象としない
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	(1) 本学で開講される学びの精神、多彩な学び1～5カテゴリの講義系の全科目、演習系「立教ゼミナール発展編」の全科目、および多彩な学び・6カテゴリで開講するグローバル教育センター提供科目を対象とする (2) 学びの精神、多彩な学び1～5カテゴリは、担当する1教員（専任・兼任）1科目の実施とする。ただし、「立教ゼミナール発展編」を担当する教員はこれに追加して実施する (3) 多彩な学び・6カテゴリで開講するグローバル教育センター提供科目は、本学で開講される全科目で実施をする (4) 1教員につき実施対象候補科目が複数ある場合には、以下の順序で、実施科目を選定する ①学びの精神を優先 ②多彩な学びの企画提案型科目「コラボレーション科目」を優先 ③新座開講科目を優先 ④2時限・3時限を優先 ⑤全体における春学期・秋学期の実施科目数に配慮する
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	原則として、全科目実施する
学校・社会教育講座	(1) 履修者5名以下が予想される科目は対象外とする (2) 教職課程は「講義科目1教員1科目」を原則として実施する (3) 他課程は、今年度、特に授業評価を要する重点的科目に限って、アンケートを実施する

2-4 実施科目数

最少回答人数（5名以上）の条件を満たした科目数を実施科目とする。

（最少回答人数に満たなかった科目については、学部提供データをはじめとした各種統計データには含めないこととする。）

春学期の授業評価アンケートは中止、秋学期の実施科目は1,513科目であった。

所見票提出率は77.53%（1,173/1,513）となった。

科目開設学部等	実施 予定 科目数	実施学期内訳		実施 科目数 (回答者 5名以上)	実施学期内訳		所見票 提出数	実施学期内訳	
		春学期	秋学期		春学期	秋学期		春学期	秋学期
文 学 部	100	—	100	81	—	81	63	—	63
経 済 学 部	62	—	62	58	—	58	45	—	45
理 学 部	59	—	59	52	—	52	44	—	44
社 会 学 部	66	—	66	59	—	59	43	—	43
法 学 部	21	—	21	21	—	21	20	—	20
経 営 学 部	46	—	46	39	—	39	22	—	22
異文化コミュニケーション学部	15	—	15	9	—	9	8	—	8
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	15	—	15	11	—	11	6	—	6
観 光 学 部	48	—	48	41	—	41	32	—	32
コミュニティ福祉学部	24	—	24	24	—	24	20	—	20
現 代 心 理 学 部	15	—	15	15	—	15	13	—	13
全学共通カリキュラム運営センター ・総合系科目	229	—	229	198	—	198	146	—	146
全学共通カリキュラム運営センター ・言語系科目	1020	—	1020	880	—	880	692	—	692
学校・社会教育講座	26	—	26	25	—	25	19	—	19
合 計	1,746	0	1,746	1,513	0	1,513	1,173	0	1,173

2-5 実施期間

下記の実施期間のうち、アンケートは原則として13回目の授業時に実施し、休講等で実施できなかった場合は14回目（最終授業）の授業時もしくは、実施期間終了時まで実施することとした。

春学期：実施中止

秋学期：2020年12月21日（月）～2021年1月25日（月）

2-6 回答者数

アンケート実施科目の延べ回答者数を、科目の開設学部等別に下表にまとめた。参考のために、延べ履修者数も表に載せた。

アンケートの回答率（※）は、45.8%（〈B〉 37,044 / 〈A〉 80,955）であった。

※ 〈B〉 集計対象科目回答者数（回答者 5 名以上） / 〈A〉 集計対象科目履修者数（回答者 5 名以上）

科目開設学部等	春学期		秋学期		合 計	
	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数
文 学 部	—	—	4,943	2,208	4,943	2,208
経 済 学 部	—	—	3,396	1,862	3,396	1,862
理 学 部	—	—	3,244	1,445	3,244	1,445
社 会 学 部	—	—	6,937	1,828	6,937	1,828
法 学 部	—	—	2,779	745	2,779	745
経 営 学 部	—	—	6,004	1,926	6,004	1,926
異文化コミュニケーション学部	—	—	231	112	231	112
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	—	—	248	137	248	137
観 光 学 部	—	—	5,411	2,005	5,411	2,005
コミュニティ福祉学部	—	—	1,955	1,045	1,955	1,045
現代心理学部	—	—	2,076	1,071	2,076	1,071
全学共通カリキュラム運営センター・ 総合系科目	—	—	23,929	9,539	23,929	9,539
全学共通カリキュラム運営センター・ 言語系科目	—	—	18,770	12,559	18,770	12,559
学校・社会教育講座	—	—	1,032	562	1,032	562
合 計	0	0	80,955	37,044	80,955	37,044

2-7 「所見票」の公開

所見票（科目別の集計結果および科目担当者による所見）は、Web 上で学生・教職員（兼任講師含む）に対し閲覧に供している。

※閲覧にあたっては V-Campus ID / パスワードが必要

< 立教時間：所見票検索 >

教職員：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/tcr/ces/feedback/search/index>

学 生：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/stu/ces/feedback/search/index>

< 所見票閲覧システム（2019 年度以前） >

<https://wwwj.rikkyo.ac.jp/kyomubu/etsuran/top.html>

2-8 任意実施科目

2020 年度秋学期より「立教時間」による Web 方式で「学生による授業評価アンケート」が実施されることになり、実施上限科目数の制約が解消されたことを受けて、学部等が選定した実施科目に加えて、各教員が希望した科目において任意に「学生による授業評価アンケート」を実施可能とすることになった。

2020 年度秋学期は大学教育開発・支援センターより「立教時間（SPIRIT メール）」を通じて、任意実施について案内を行ったが、実施を希望する申請はなかった。

3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック

3-1 科目担当者

担当科目の以下の集計結果をアンケート実施 1~2 ヶ月後に「立教時間」上に掲載し、これらを基に、科目担当者に所見票の執筆を依頼した (p.16 にサンプル画面を掲載)。

- ・ 回答情報 (自由記述回答含む)
- ・ 回答統計情報

3-2 学部等

以下により集計し、2) の結果と科目担当者が執筆した所見票を送付の上、学部等総評の執筆を依頼した。

1) 集計の方針

集計の方針は、以下のとおりとした。

- ① 学部等別・学科等別に集計する。
- ② 科目選定方針が「学部等の必要性に応じた選定」である本年度は、全学集計は行わない。また、全学部等間の設問項目別平均値の一覧表は作成しない。

2) 集計内容

① 回答者数・回答率

アンケート回答者数を学部等別、学年別に集計した (合計も記載)。また、アンケート実施科目について学部等別の回答率 (回答者数/履修者数) を算出した (p.66 参照)。

② 平均値・回答割合に関する集計

平均値・回答割合に関する集計は、下表のとおり行った。

提供した集計データ \ 集計単位	学部等別 ^{*1}	学科等別 ^{*1}
設問項目別	● ^{*2} (pp.67-80参照)	●
学年別	●	—
授業規模別	●	—

*1 学部等には、当該学部の結果を提供

*2 学部等には、設問項目別に回答割合を示した帯グラフも提供

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (1/2)

立教時間 (0)
立教太郎
≡

授業評価アンケート結果確認・所見入力

授業評価アンケート結果確認・所見入力

戻る

ダウンロード

2020年度秋学期「学生による授業評価アンケート」

スティーダス
未着手

教室情報

所見提出日

アンケート入力期間

シラバスの参照
クリックしてシラバスを表示

説明
このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。
The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:6件

学生の学習姿勢
My participation in this course

この授業に積極的に参加した
I actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う / Strongly Agree:16% (1)

4 そう思う / Agree:33% (2)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree:33% (2)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree:16% (1)

1 そう思わない / Disagree:0% (0)

この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に)
Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.
⇒ Fill in how many hours.

平均: 4.5 (6)

教員の授業改善に向けて
To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が読み、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、真摯な態度で回答してください。
The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

各回の授業内容は明確だった
The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う / Strongly Agree:16% (1)

4 そう思う / Agree:50% (3)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree:16% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree:16% (1)

1 そう思わない / Disagree:0% (0)

教員の伝え方はわかりやすかった
The instructor's way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う / Strongly Agree:16% (1)

4 そう思う / Agree:50% (3)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree:33% (2)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree:0% (0)

1 そう思わない / Disagree:0% (0)

この授業でよいと思った点はありませんか【複数選択可】
Is there anything that you thought good about this course? [Multiple answers allowed]

配付資料 (授業のシジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (3)

板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)

パワーポイント / PowerPoint (3)

動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) (2)

シラバス / Syllabus (1)

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)

上記以外での授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】
If you have any other good comments or opinions about this course, please explain. [Free writing]

自由記述サンプル回答 1

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (2/2)

この授業を褒めて満足した
I was satisfied with this course.

5 大いに思う / Strongly Agree: 16% (1)

4 そう思う / Agree: 66% (4)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 16% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 0% (0)

1 そう思わない / Disagree: 0% (0)

ダウンロード

担当教員の所見：立教太郎

*授業評価に対する担当教員の所見
*Feedback from instructor on class evaluation survey

*改善に向けた今後の方針
*Plans for improvements in the future

戻る

自由記述サンプル回答 2
自由記述サンプル回答 3
さらに表示... (残り3件)

この授業で改善すべき点と認めた点がありますか【複数選択可】
Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]

配布資料 (授業のレジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (3)

板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)

パワーポイント / PowerPoint (3)

動画等の映像視聴教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (1)

シラバス / Syllabus (1)

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)

上記以外での授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】
If you have any other improvement comments or opinions about this course, please explain. [Free writing]

自由記述サンプル回答 1
自由記述サンプル回答 2
自由記述サンプル回答 3
さらに表示... (残り3件)

学生が授業に期待するもの
Student's expectations of this course

この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】
Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]

自分にとって新しい考え方・発想 / New concepts and new ways of thinking (2)

授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 / Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4)

自分で調べ考える姿勢 / A positive attitude towards doing my own research and analysis (4)

学問的興味 / Academic content which was suitably challenging (2)

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (0)

上記以外での授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】
If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]

自由記述サンプル回答 1
自由記述サンプル回答 2
自由記述サンプル回答 3
さらに表示... (残り3件)

サンプル <所見票> (1/2)

立教時間 (1)

Home (1) / 所見票検索 (/csr/ces/feedback/search/reload) / 所見票確認

立教太郎

☰

※科目名が入る

授業評価入力・確認

2020年度秋季学期「学生による授業評価アンケート」

ステータス
確定

教室情報

提出日

アンケート入力期間

シラバスの参照
クリックしてシラバスを表示

説明
このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。
The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:6件

学生の学習姿勢
My participation in this course
この授業に積極的に参加した
I actively participated in the lessons.
5 大いにそう思う / Strongly Agree:16%
4 そう思う / Agree:33%
3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree:33%
2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree:16%
1 そう思わない / Disagree:0%

この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に)
Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.
⇒ Fill in how many hours.
平均 : 4.5 (6)

教員の授業改善に向けて
To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が励み、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、真摯な態度で回答してください。
The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

各回の授業内容は明確だった
The content of each lesson was clear.
5 大いにそう思う / Strongly Agree:16%
4 そう思う / Agree:50%
3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree:16%
2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree:16%
1 そう思わない / Disagree:0%

教員の伝え方はわかりやすかった
The instructor's way of communicating was easy to understand.
5 大いにそう思う / Strongly Agree:16%
4 そう思う / Agree:50%
3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree:33%
2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree:0%
1 そう思わない / Disagree:0%

この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】
Is there anything that you thought good about this course? [Multiple answers allowed]
配付資料 (授業のシジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (3)
板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)
パワーポイント / PowerPoint (3)
動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (2)
シラバス / Syllabus (1)
上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)

上記以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】
If you have any other good comments or opinions about this course, please explain. [Free writing]

2/4

- 18 -

サンプル <所見票> (2/2)

※所見が表示されます

*改善に向けた今後の方針
*Plans for improvements in the future

※所見が表示されます

[戻る](#)

<p>この授業で改善すべき点かと思っただけはありますか【複数選択可】 Is there anything that can improve this course?【Multiple answers allowed】</p> <p>配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (3)</p> <p>板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)</p> <p>パワーポイント／PowerPoint (3)</p> <p>動画等の映像視聴教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）／Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (1)</p> <p>シラバス／Syllabus (1)</p> <p>上記にあてはまるものがない／N/A not applicable (1)</p> <p>上記以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 If you have any other improvement comments or opinions about this course, please explain. [Free writing]</p>	<p>学生が授業に期待するもの Student's expectations of this course</p> <p>この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】 Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]</p> <p>自分にとって新しい考え方・発想／New concepts and new ways of thinking (2)</p> <p>授業で扱った分野に関する基本的な専門知識／Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4)</p> <p>自分で調べ考える姿勢／A positive attitude towards doing my own research and analysis (4)</p> <p>学問的興味／Academic content which was suitably challenging (2)</p> <p>上記にあてはまるものがない／N/A not applicable (0)</p> <p>上記以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]</p>
<p>この授業を受けて満足した I was satisfied with this course.</p> <p>5 大いにそう思う／Strongly Agree:16%</p> <p>4 そう思う／Agree:66%</p> <p>3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:16%</p> <p>2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:0%</p> <p>1 そう思わない／Disagree:0%</p>	
<p style="text-align: center;">担当教員の所見：立教太郎</p> <p>*授業評価に対する担当教員の所見 *Feedback from instructor on class evaluation survey</p>	

4. 学部等総評

学部等総評は、科目ごとの集計結果、各教員の執筆した所見および学部全体の集計結果をもとに、下記を基本形として、各学部等が執筆した。

<構成の基本形>

1. 科目選定方針とねらい
2. 集計データにみられる結果のまとめ
3. 担当教員の所見票に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）
4. 今後の改善に向けて

4-1 文学部

1. 科目選定方針とねらい

2020年度については、導入ならびに基礎科目を中心として調査を行う方針を立て、以下の科目を選定した。

(1) 各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目

- ①1年次必修科目
- ②1年次で履修可能な科目
- ③2年次必修科目
- ④2年次で自動登録となる科目

(2) 文学部基幹科目

(3) 各学科・専修で必要と認める科目

なお、学部による設問項目については、これまで踏襲してきた設問が対面授業を前提としたものであって、オンライン授業には適切でなかったため、学部による設問項目は設けなかった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

アンケート実施科目数は合計81科目で、内訳としては春学期0（中止のため）、秋学期81科目であった。調査対象となった科目の総履修者数は4,943名で、そのうちの44.7%にあたる2,208名から回答があった。この回答率は全学平均（45.8%）をやや下回るものであると同時に、昨年度の文学部回答率（68.76%）からは大幅な下落となってしまった。こうした傾向の変化の背景には、授業のオンライン化や、アンケートの実施方法がWeb化されたことによる影響が考えられるが、文学部としては継続的に一定数の回答者数を確保している。

学年別の回答者数を見ると、1年生1,106名、2年生684名、3年生299名、4年生116名、その他が3名となっている。導入教育を中心に学科・専修ごとに科目を指定し、それぞれの動向を把握するというねらいに対応した分布になった。

I 「学生の学習姿勢」

文学部の回答平均値において、I1「授業参加の積極性」は昨年度の平均値4.13から4.25へ、I2「授業時間外の学習」は1.06時間から1.67時間へ上昇した。オンライン授業によって課題が増えたことなどに伴い、学生の積極性や授業時間外の学習時間が高まったものと思われる。

II 「教員の授業改善に向けて」

II1「各回の授業内容」に対する評価が4.36、II2「教員の伝え方」には4.23と、ともに4点を上回る高い評価が与えられており、教員のオンライン授業内容に対する学生の満足度は高いとみて良い。複数選択可の選択項目を列挙したII3「授業のよい点」では、①「配付資料（レジュメなど）」（59.5%）および③「パワーポイント」（25.5%）を選択する学生が多かった一方で、⑤「シラバス」（7.7%）は選択項目中もっとも低いパーセンテージとなった。シラバスの読みやすさを高めることは、大きな課題と言える。他方、II5「授業の改善点」については、全体の59.8%が⑥「あてはまるものがない」を選択するとともに、もっともポイントが高かった①「配付資料（レジュメなど）」でも、選択学生の割合は12.9%であ

り、教員の授業準備に対して、概ね好意的な評価が寄せられていると考えて良い。

一方で、例年教室規模によって大きな違いが現れる「授業の静粛性」といった設問項目がオンライン授業のために削除されたことから、継続的な課題である大規模教室での静粛性の確保については、先送りとなっている状態である。

Ⅲ「学生が授業に期待するもの」

Ⅲ1「授業から得られたもの」については、複数選択可として以下のような項目を挙げたが、実に 99.6%の学生が一つ以上の項目を選択した。各項目における選択者の割合は丸括弧内に示すと、それぞれ ①「自分にとっての新しい考え方・発想」(51.7%)、②「基本的な専門知識」(62.6%)、③「自分で調べ考える姿勢」(31.6%)、④「学問的興味」(43.6%)、⑤「上記にあてはまるものがない」(2.9%)となっており、「新しい考え方」や「専門知識」を学生に伝えることに対し、高い効果が上がっていることがわかる。一方、「自分で調べ考える姿勢」については、他の項目に比べ低い値が出ており、オンライン授業において学生の自主的な学びをどのように保持するかは、今後も課題となるだろう。

また、Ⅲ3「授業の満足度」については総じて高い評価が与えられたが、学年別に見てみると2～4年生がいずれも4.3を超える値であるのに対し、1年生の満足度だけが4.19とわずかに低めになっている。これは、入学後すぐに全面オンライン授業となってしまう、大学で対面の授業を受けられなかったことと関係するのかもしれない。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が学生の評価と向き合い、その内容を正面から受け止めて、今後の改善策を探ることにつなげようとする姿勢を表明している。特に、評価が低い項目についてはそうした傾向が強い。

1) 所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

教員の周到な授業準備や丁寧な説明に好感を表明する学生が多く、またブレイクアウトセッションや画面（動画）共有機能の活用など、オンライン授業で学生の積極的な参加を促す工夫にも、評価するコメントが寄せられた。また、教員の人柄に対する好意的なコメントや、導入期の授業や演習での教員と学生との活発な交流がわかる記述も多かった。

その一方で、ブレイクアウトセッションが負担だ、音声や映像に乱れがあった、オンデマンド対応の授業にして欲しい、パワーポイントの資料が見にくい、授業資料のアップロードのタイミングが授業直前であったなど、オンライン授業ならではの具体的な改善要望も多く寄せられた。また、授業進度が速すぎる、評価方法が明確でなかった、レポート課題の書き方について説明が欲しかったなど授業実施形態に関わらない要望もあり、教員の側ではいずれについても改善を検討していく必要があるだろう。

2) 上記1) に対する担当教員の所見のまとめ

多くの教員が、オンライン授業実施に対する自らの取り組みを振り返るとともに、学生の指摘内容を丁寧に聞き取り、今後の授業に活かそうとする真摯な姿勢を見せている。多くの教員の所見に「手探り」という表現が頻出することからもわかるように、学生とともに教員もまた、初めての状況でさまざまな工夫を行っていたことが感じられる。これに関連して、授業運営におけるTAの技術的なサポートに対する謝意を含む言及も散見された。

演習・講義といった授業種別を問わず、学生からのコメントに励まされたという旨の記述が少なからず見られる。また、大人数講義では、むしろ履修者総数にかかわらず学生との1対1の関係が築けるオンライン授業が持つ可能性を指摘する声もあった。いずれの場合も、学生との意見交換を求める姿勢が教員側に共有されているがゆえに、所見欄からこうした様相が見えてくるのであろう。

さらには、全体的な回答率が大幅に下がったことと一致して、教員の所見にも、アンケートの回答数が少ないことを指摘し、もっと周知を徹底すべきだったという反省が述べられているものが散見された。これもまた、学生からの評価を真摯に受け止めようという教員の姿勢の表れだと言える。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

多くの教員が、アンケートの結果を受けて、授業改善を目指した対応を行おうとしている。改善すべき点は授業ごとに異なるが、共通するのはオンライン授業における学生とのコミュニケーションの確保、技術的な不具合の削減・防止など、オンライン授業を行うに当たってのノウハウの蓄積の必要性を挙げていることである。その一方、例年の対面授業では必ず要望が寄せられる「教室内の私語の抑止」について、2020年度は発生し得ない問題であったことなども念頭に、今後対面授業に戻った際に2020年度の経験をどう活かしていくかといったことを中長期的課題とする所見もあった。また、全体的な満足度は高いものの、自由記述欄に不満の表明がある科目などでは、履修学生の基礎学力にばらつきがある中で、取りこぼしのない授業を運営するために教員が苦慮している様子が所見欄より窺えた。

4. 今後の改善に向けて

2020年度は、COVID-19感染拡大を受けて授業運営上の大きな変化を余儀なくされた年であった。だが、教員はいずれも真摯に事態に向き合い、周到な準備とさまざまな工夫をしてオンライン授業運営にあたったと言って良く、学生の満足度も総じて高かった。

その一方で、学生から寄せられたオンライン授業資料に関する要望の多くが「パワーポイントの資料が文字情報ばかりで見にくいので、もっと図版を入れて欲しい」という内容のものであったことは、文献の精読をその根幹とする学問分野を多く抱える文学部におけるオンライン授業の難しさをも露呈することとなった。すでに教員が各自で試みていることではあるが、学生を飽きさせない資料作りと文献の緻密な精読の両立のためには、今後ともさまざまな工夫が必要となるだろう。

新型コロナウイルスを巡る現状を鑑みるに、少なくとも今後しばらくはまだ、対面授業とオンライン授業を並行していく必要があると思われる。2020年度の「学生による授業評価アンケート」で見えてきたオンライン授業特有の問題に取り組みつつ、例年の継続的課題である大規模教室での静粛性の確保などの検討も行っていくことが肝要であろう。

4-2 経済学部

1. 科目選定方針とねらい

2020年度の選定方針は概ね以下の通りである。

- ・「講義科目 1 教員 1 科目」の調査は実施しない。
- ・共通シラバスを用い、授業の目的および内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目および積み上げ方式の1年次科目についてアンケートを実施する。

アンケートのねらいは、学生側からの授業評価を通じて、今後における授業改善のための課題を各々の授業担当教員が認識することにある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2020年度のアンケート実施科目数は58科目（実施対象科目62科目）、回答者は延べ1,862名となった。履修者数と比した回答率は54.8%と全学平均（45.8%）を上回った。回答率が高かった要因として、実施対象科目の中心が1年次の必修あるいは自動登録科目であり（延べ回答者の9割以上が1年次生）、授業への出席率が高かったことが考えられる。

まず、設問項目別平均値についてまとめる。「I 学生の学習姿勢」、「II 教員の授業改善に向けて」、「III 学生が授業に期待するもの」においては、「I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」の平均値が1.72であったことを除いて、全ての項目で3.90以上という高い数値が算出されている。基礎ゼミナール2と情報処理入門2を対象とした「IV 学部等による設問」においても、5項目のうち4項目が3.90以上という高い数値となっている。相対的に平均値が低い項目としては、「IV4（情報処理入門2）Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身に付いた」が3.73となっている。その一方で、「IV2（基礎ゼミナール2）レジュメやレポート作成の力がついた」については、4.30と最も高い数値となっており、ここには改善の余地がある事が示されている。この点については、4. で後述する。

次に、設問項目別回答割合についてまとめる。「II3 この授業でよいと思った点がありますか（複数選択可）」では、「配付資料（授業のレジュメなど）」が53.5%と突出しており、「パワーポイント」が32.9%と続いている。注目すべきは、「II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか（複数選択可）」においても、「配付資料（授業のレジュメなど）」が12.2%と2番目に高い数値になっていることである（最上位は「上記にあてはまるものがない」の61.1%）。授業を受ける学生にとってレジュメを含む配付資料がとても重要であることが示されており、レジュメを含む配付資料を学生が重視していることを担当教員は留意しておくべきであろう。「III 1 この授業から得ることができたものはありますか（複数選択可）」においては、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が67.6%と高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」はいずれも25~27%と相対的に低くなっている。ここにも改善の余地があると思われる、この点についても4. で後述する。

また、授業規模別平均値に関しては、101名以上の授業では平均値が若干低下する傾向がみられる。これは今回のアンケート実施科目58のうち、101名以上の科目は5と少なく、50名以下の科目は50を占めていることが影響しているよう。これら科目の多くは「基礎ゼミナール」のような演習科目および「情報処理入門」のような実習系科目で、教員によるきめ細かい指導が行われたことを反映しているものと推測される。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

所見の記述内容は各教員によって差異があるものの、オンライン授業に関係する内容が多かった。具体的には、Zoom を利用したライブ形式ではチャット機能によって双方向性が保たれたこと、オンデマンド形式では反復学習が可能になったこと、などが学生からの高評価につながった可能性が指摘されている。実際に、当該授業の履修学生による記述回答においては、質問に丁寧に対応していただいた教員に対する感謝や、難しくて分からなかった問題が授業動画を複数回観て分かるようになって良かったという意見が多くみられる。その一方で、改善すべき点として、オンライン授業における画像の悪さに対する不満も数多く記されており、オンライン授業の実施が、良い評価にも悪い評価にもつながっていることが確認できる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

オンライン授業時における教員のツール使用などによる双方向性の取り方によって、学生によるアンケート評価が異なっている傾向が見受けられる。アンケートで高い評価を得た授業の方法および内容を共有する FD を企画し、教員間における有効ツールに関する情報の共有化を図りたい。このほか、過年度のアンケートでは、私語などによる授業環境への不満が一部学生から寄せられていたが、オンライン授業ではその点に関する学生の不満は消えている。とはいえ、対面授業に戻った時の課題として留意しておきたい。

4. 今後の改善に向けて

基本的には学生より高い評価を得ることができたといえるが、改善の余地はある。まず、2. の第 2 段落で指摘した、「IV2 (基礎ゼミナール 2) レジュメやレポート作成の力がついた」が相対的に高い数値となっている一方で、「IV4 (情報処理入門 2) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた」が相対的に低い数値となっていることについてである。このことは、「基礎ゼミナール」で修得するレジュメ・レポート作成能力を、「情報処理入門」で養う Power Point プレゼンテーション用資料作成能力へと連動させる工夫がなされれば、1 年次生にとってより良い学習成果の獲得が期待されることを示している。

次に、2. の第 3 段落で指摘した、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の数値が相対的に高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」の数値はいずれも相対的に低くなっていることについてである。この点は過年度からの改善すべき課題として認識されていた。しかし、当該科目の内容を発展的な勉強へとつなげられるような学問的関心が十分に喚起されていないと判断せざるを得ない。アンケート対象科目のほとんどが 1 年次生向けの科目であり、基本的な専門知識を理解することに注力したために、発展的な勉強を行うための十分な時間がとれなかった可能性もあるが、今後においても、学生（とりわけ 1 年次生）に対して時事問題に対する意識や経済学そのものへの関心を高める継続的試みが必要と考えられる。

4-3 理学部

1. 科目選定方針とねらい

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年度春学期のすべての授業をオンラインで行うことが決定されたため、例年のマークシート方式による「授業評価アンケート」は中止された。2020年度秋学期は「立教時間」を用いたオンライン版の「授業評価アンケート」を実施した。「学部等の必要性に応じた選定」という科目選定方針、および経年変化を調査するため同じ科目を選定するという理学部の方針に沿って、数学科は2010年度から新設の必修科目・選択必修科目、物理学科は原則すべての講義科目（複数教員担当科目を除く）、化学科は必修講義科目と選択講義科目（複数教員担当科目を除く）、生命理学科は原則としてすべての科目（複数教員担当科目を除く）を選定した。なお、複数の科目が教員一人の担当とならないよう重複は避けた。理学部独自の設問についても例年通り行った。共通教育科目は受講者数の少ない科目、ゼミナール科目を除いて実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

理学部の回答率は44.5%で全学平均の45.8%より僅かに低い程度であるが、一方、昨年度の回答率(61.43%)に対しては大きく減少していた。全学平均の回答率も同様に大幅減少しており、授業中に行う従来の方式から「立教時間」を通じて行うWeb方式に変更したことが要因の一つと考えられる。学年ごとの回答者数（1年生685名、2年生460名、3年生241名、4年生56名）を見ても、昨年度の回答者数の22.9%～46.6%となっており、春学期の「授業評価アンケート」の実施中止を差し引いても大幅に減少していた。

個別の項目を見ていくと、「(I1) この授業に積極的に参加した」は4.17で昨年度(4.19)から横ばいだが、学科別では数学(4.35)と化学(4.32)が高く、物理(4.02)と生命理(4.00)が低い傾向にある。「(I2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間」では、1.78時間と昨年度より0.38時間の大幅増加となっており、特に数学(2.59)と物理(2.05)が2時間以上の値を示していた。これは、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策で外出を自粛したことで自習に当てる時間が増えたことが要因の一つと考えられる。「(II1) 各回の授業内容は明確だった」(4.31)や「(III3) この授業を受けて満足した」(4.11)の項目も昨年度から0.2と0.14ポイントそれぞれ増加しており、コロナ禍でのオンライン授業に一定の評価があったものと考えられる。「(IV) 学部等による設問」についても、「シラバスに沿って授業」「教員が質問・疑問に対し積極的に答えた」「高校までの授業スタイルとの違いを考慮」の3項目で昨年度より改善がみられた。ただし、「授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった」については3.23と昨年度(4.01)より大幅な減少となった。コロナ禍で外出自粛により、学生同士での学習機会が減ったことが要因の一つと考えられる。最後に、今年すべての評価結果については、アンケートの低い回答率のため一部の学生の意見しか反映されていない点を留意する必要がある。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2020年度は春・秋学期ともオンライン授業であったため、春学期の試行錯誤の成果を秋学期の授業に反映させることができた教員がいる一方で、秋学期が初めてのオンライン授

業となる教員では手探りの中でパワーポイントや配布資料の作成を行っており、秋学期科目に対する評価アンケートであるため科目毎に教員の経験の差が現れていた。ただ全体としては、集計データや所見が示すように、概ね肯定的な学生の反応に手応えを感じる教員が多かった。

1) 学生の意見（記述による評価）の集約

「肯定的な意見の集約」：秋学期のオンライン授業であるため、教材・課題の工夫やオンライン授業支援システム **Blackboard** を用いたオンデマンド配信授業の充実などの教員ごとの工夫がみられ、多くの好意的な意見が得られていた。また、これまで板書中心だった授業もオンラインでデジタル化され、見やすく分りやすい文字や図表が評価を得ていた。

「否定的な意見の集約」：Wi-Fi 環境によっては授業中の相互の意思疎通が難しい、オンデマンド配信ではその場での質問ができないなどのオンライン授業ならではの問題点が指摘された。また、課題の多さや授業の速い進行速度も批判的な意見としてあった。

2) 担当教員の所見の集約

Zoom プライベートチャットを活用して質問しやすくしたり、毎回録画した授業を復習のために利用させるなどの工夫により、一方向で一過的になりがちなオンライン授業での学生の満足度の向上を図った教員もあった。また別の教員では、リアクションペーパーを **Google** フォームなどに変更することで回収率と学生の理解度の把握を向上させていた。一方、学生の反応をカメラ越しにしか確認できないため、学生に合わせた授業の進行が難しいという意見もあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2020 年度の春・秋学期の授業を通じて、教員毎にオンライン授業のやり方の改善がかなり進んできた。今後もさらに学生の授業の理解と満足度の向上を目指す必要がある。しかし、授業を受ける側の学生の学習環境が多様であることが一つの支障となっている。例えば、オンデマンド配信や音声のみ（画面 OFF）での授業などの Wi-Fi 環境が安定しない学生向けの工夫は、整った通信環境で受講する学生には十分な授業満足度を与えることが難しい。今後は、異なる通信環境でも充実した授業にするための工夫がさらに求められる。

4. 今後の改善に向けて

2020 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のためオンライン授業元年となった。それぞれの教員が手探りの中で工夫を凝らせたオンライン授業を行い、授業そのものには一定の評価を得た。しかし、期末テストがレポート試験となったことで成績評価にとっては難しい面も出てきた。それを補うためには、リアクションペーパーで細かく評価するなど毎回の授業での評価が重要となる。ただし、履修者の多い科目では、その評価はより難しくなる。今後は、オンラインに対応した成績評価方法の改善が求められる。また、学生の通信環境の改善のためのサポートやミックス型オンライン授業への対応なども今後の検討課題となる。

4-4 社会学部

1. 科目選定方針とねらい

2020年度の授業評価アンケートは、全学的な方針として春学期が中止、秋学期がWebでの実施となったが、社会学部もこれに沿った準備と実施を行った。対象科目の選定方針は前年度を踏襲し、以下のとおりとした。

①必修科目はすべて実施する

②講義科目については、科目の種類を問わず、なるべく「年間1教員1科目」となるように選定作業を行う

2012年度導入の現行カリキュラムでは、従来学科別に行われていた初年次、2年次の必修科目を学部共通の必修科目と位置づけ、これまで以上に学部として基礎教育の充実を目指すことになった。そのため、これらの科目に対する学生の評価は、今後の基礎教育のさらなる充実に向け重要である。①については、2011年度までは「必修・選択必修の講義科目は、原則としてすべて実施する」というやや緩やかな方針をとっていたが、基礎教育を重視するカリキュラム改訂の実施を踏まえて、2012年度からは必修科目は全て実施するという変更を行った。2020年度は「学部等の必要性に応じた選定」が全学の科目選定方針であるが、社会学部においては②を2007年度以降選定方針としており、2020年度についてもこれに準拠した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 授業規模別

授業規模が小さく回答者が少ないほど評価が高くなる、というのは社会学部に限らず、例年の傾向である。しかし2020年度については、50名以下を「S」、51~100名を「M」、101~150名を「L」、151名以上を「LL」とした場合、「LL」に該当する科目がなく、また「L」についても該当科目が1科目だけのためその数値が公表されていない。従ってここでの記述は「S」および「M」の計58科目についてのものとなる。

例年に比べ数が半減している（春学期に実施されていないため）ことに加え、「L」・「LL」との比較もできないのであまり確定的なことを述べるのは困難だが、「M」にくらべ「S」の方が、「I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間」がやや長く、「III1③自分で調べ考える姿勢」を得られたと考えている学生が多いことが判る。また「II3④動画等の映像視覚教材」に関する評価も「S」の方が高い。しかし反面、「III3 この授業を受けて満足した」については若干ながら「M」の方が「S」よりも数値が高く、また「II3①配付資料」「II3②板書」「II3③パワーポイント」についても「M」のほうが高スコアであった。なお、「I1 この授業に積極的に参加した」については、「S」と「M」が完全に同数値であった。

2-2 学年別

「I1 この授業に積極的に参加した」は学部1年生がもっとも数値が高いが、「I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間」はむしろ3・4年生の方が高スコアになっている。興味深いのは「II1 各回の授業内容は明確だった」と「II2 教員の伝え方はわかりやすかった」「III3 この授業を受けて満足した」の三項目で、これらはいずれも学年が上がるほど高スコアになっている。これは教員の問題というよりもむしろ、それを受け止める学生の

側の理解力・吸収力が向上した結果ではないかと推測される。加えて、初年次向けの基礎的な総論よりも、高学年向けの各論や発展的な科目の方が、おそらく学生にとっては興味深いと感じられることもあるのだろう。

2-3 学科別

科目開設学科による分類では、学科間の差はさほど大きくないものの現代文化学科の数字が高い傾向にあり、共通科目が相対的に低めの数字となっている。例えば「Ⅲ3 この授業を受けて満足した」は、現代文化学科 4.34、メディア社会学科 4.33、社会学科 4.26、学部共通 4.20 の順番となっている。ただ、2020 年度は過年度からアンケートの質問内容が変わっているため、過年度と単純に比較することができない。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

まず「授業評価アンケート」全般については、回答数の少なさを指摘する声がしばしば見られた。教室での対面授業であれば、授業中にマークシートを書かせて解散前に集めるといった方法が採れるため、例年はそれなりの回収率を確保できていたわけだが、オンラインの場合、アンケートを提出しない学生が多くいたことが推知される。

続いて所見の具体的内容だが、当然ながらその多くが初のオンライン化に関わるものとなっている。オンライン授業そのものについては「学生が想像以上に積極的に参加してくれた」と評価する声もそれなりに見られた。また授業運営上の具体的な工夫として、リアクションペーパーの回数を増やす、確認のため的小テストを行う、などの点も挙げられていた。しかしその一方で、ソフトウェアの操作ミスをしてしまう、回線が不安定になる、受講生の即時的な反応が見えない、学生からの質疑が出にくい、などオンライン特有の問題も散見された。

1) 所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

教員とのより積極的なコミュニケーションの機会を求める意見、授業で用いる各種資料の共有を求める意見、リアクションペーパーの増加に対する不満、資料の画質等に関する不満、などが読み取れる。一方で、オンデマンド授業の自由度を評価する声もあったようだ。

2) 上記1) に対する担当教員の所見のまとめ

肯定的コメント、改善を求めるコメントの双方とも、積極的に受け止め、よりよくするために役立てようとする意向が表明されていた。特にオンライン授業を念頭に置いた内容・資料等のブラッシュアップ・バージョンアップを図りたい、という声が多い印象であった。また回線トラブル対策も視野に入れた動画の保存や、一方通行にならないコミュニケーションの活発化の重要性なども指摘されていた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

次年度（2021 年度）もオンライン授業が中心となることを踏まえ、一層の改善・工夫を図りたいという声が多く聞かれた。他方で、上記 3-1 でも指摘したとおり、アンケートの回答率の低さを問題視する意見が多く見られた。せつかくのアンケートも、十分な回答率がなければ学生の声をストレートに反映したものとはならない。次年度（2021 年度）にお

る重要な課題であろう。

4. 今後の改善に向けて

短期的には「オンライン授業に関する改善」を考えるべきなのだろうが、そもそもコロナ禍という特殊状況がいつまで続くかわからず、そうした（オンラインを念頭に据えた）改善もいつまで／どの程度まで必要なのかは見極めが難しい問題である。もちろん「オンライン化に際して行った工夫が対面状況に戻っても活きる」というのが理想ではあるのだが。

他方、例年問題として取り上げられてきた大規模授業に起因する静粛性の問題などは今回のアンケートからは読み取れなかった。もちろん、それは状況が改善されたからではなく、オンラインという特殊状況ゆえに「関係がなかった」からである。対面授業に戻った際にはこれら積年の問題にも再度立ち戻る必要があるだろう。

4-5 法学部

1. 科目選定方針とねらい

法学部では、2011年度より、全教員（専任・兼任）について授業評価アンケートを行うのは3年に1回とし、それ以外の年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを行うことにした。

2020年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを実施する年度に該当するため、教員の希望を調査した上で、合計21科目につき授業評価アンケートを行った。なお、毎年度の全教員についての授業評価アンケートの実施をとりやめたのは、授業評価アンケートも回を重ねるにつれて、アンケート結果に対して授業改善に取り組むという姿勢が浸透しているため、3年に1回のアンケートで、学生からの意見のフィードバックとしては十分であると考えられるためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

集計データを参照し、回答率、設問項目別平均値、授業規模別平均値、学年別平均値の結果についてまとめる。

回答率は、26.8%であり、やや改善していた昨年（41.60%）から大幅に低下した。また、他学部の回答率と比較すると突出して低い。アンケート対象となっている講義科目では、オンデマンド配信やリアルタイムでの出席を求めない場合が多く、授業時間外に自主的に回答する必要があったことが原因ではないかと考えられるが、オンライン講義の影響については全学における検討を注視したい。いずれにせよ、3割弱の学生からの回答であることはこのアンケート結果の分析において念頭におく必要がある。

設問項目別平均値においては、設問が変更されていること、対象講義科目の限定、さらに、全面オンライン講義の実施から前年度との単純な比較はできないが、すべての項目で4.1を超えており、3点台も散見された昨年度に比して、講義の質は担保あるいは向上できたと評価できる。

II1「各回の授業内容は明確だった」（4.32）が極めて高い値を示している。II2「教員の伝え方はわかりやすかった」（4.13）、IV1「このオンライン授業は受けやすかった」（4.13）と高い。II3「この授業でよいと思った点（複数選択可）」で選択された授業で用いられた教材に対する回答では、①「配付資料（授業のレジュメなど）」の良さについて55.8%が評価しており、③「パワーポイント」も42.6%の評価を得ている。教材に関する改善要望の割合は極めて低い。III1「この授業から得ることができたもの（複数選択可）」として、②「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」を72.8%が選択したことをはじめとして、特筆すべきは④「学問的興味」（40.8%）や①「自分にとって新しい考え方・発想」（33.8%）を得られたと回答する受講者が多かった点である。学生の自主的な学習を促すという長年の課題に対して、2020年度の講義は十分に働きかけたものといえよう。これらが、III3「この授業を受けて満足した」（4.20）という高評価につながった。さらにオンライン講義について懸案とされていた点のIV2「このオンライン授業で出された課題の量は適切だった」については、4.15という高い値であった。実際のところ、I2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」という設問への回答は平均1.77時間（回答者459名）であった。

授業規模別平均値であるが、2020年度は、101名以上の授業がアンケート対象科目に1科目しかなかったため、有意な結果を得られることはできず、オンライン講義における授業規模と平均値の関係を知らることができなかった。なお、50名以下と51名～100名以下の授業規模と平均値の間にさしたる関係性が見いだせなかった。

学年別平均値についてであるが、1年生の回答平均値が他の学年に比して圧倒的に低い。例年も、学年が上がるにつれてやや値が高くなる傾向があり、大学における学習に慣れることで授業の理解が深まったためと分析されていたが、本年度は、対面授業との比較という要素が作用したと考えられる。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員の所見では、各教員が、学生の率直な評価を真摯に受け止め、相対的に評価の低い項目があった場合については、次年度以降に改善を試みる姿勢を明らかにした。特に、本年度固有の事情として、初めてのオンライン講義に関する技術的な不具合についての改善や、時間配分について工夫を約束している。

1) 所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

本年度の自由記述欄は、オンライン授業に関する技術的側面に関する言及が多かった。録画提供された科目は、オンデマンド配信型であれ事後に録画提供するものであれ、評価が高かった。また、パワーポイントやレジュメなどを配付することを求める声が多い。他方で、双方向性を求める声もあり、当然のことではあるが、学生によりその評価が分かれる。

また、例年であれば、冷暖房の不備や板書の字の大きさを指摘する意見が散見されるが、本年度は、教員の通信環境やファイル形式への不満を示す意見があった。

2) 上記1) に対する担当教員の所見のまとめ

多くの教員が、学生からの肯定的評価を今後の授業の励みとし、批判的な評価や要望に対して真摯な回答を寄せている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

レジュメ・パワーポイントについて、見やすさ分かりやすさの観点から、改善を約束するコメントが多い。さらに、形式を問わず、学生の反応がわかりにくいことから、授業の進捗について心配し、毎回の講義の狙いをより明確にすることや、どのような形であれ双方向性を確保することや、学生の主体的な学びを促すための工夫を約束する回答も多かった。

4. 今後の改善に向けて

2020年度の授業評価アンケートの結果をどのように受け止めるかは難しい。全面オンライン授業という暫定的な授業形態に関して、さらに、アンケートの設問において「改善すべき点」を問うたことによって、自由記述欄においては、学生の不満が過剰にフォーカスされた可能性は否めない。全項目における平均値の圧倒的な高さや録画提供への高評価を見る限り、オンライン講義、特にオンデマンド講義は、自分のペースで勉強できる点（聞き逃した点を聞き直せる）、集中しやすい点など利点が多いことが確認できる。対面授業が再開された後も、オンライン講義での利点を利用し、本年度の経験を生かしていくべきであろう。

しかしながら、録画の提供やシラバス、パワーポイントの詳細化という要請は、通常よりも、複製がより容易である点に鑑みて慎重に対応すべきである。

懸念事項としては、一年生の回答の平均値がおしなべて低い点である。初年度において、周りから学ぶという経験を得られず対面試験を行えなかった彼らの今後の学習達成度は最大限の注意を払う必要がある。

2020年度は、オンライン授業支援WGを中心に、教授会、基礎文献講読担当者会議等を活用し、教員間での情報共有が行われた。今後も、どのような授業形態であれ、学生に主体的・積極的な学習を促す工夫を教員間で共有し、オンライン講義における主体的・積極的な学習の経験や、ICTの活用による双方向性の確保をめざしたい。

4-6 経営学部

1. 科目選定方針とねらい

「立教時間」を用いた Web 方式による「授業評価アンケート」の実施への変更の際に、経営学部はこれまで通り、2～4 年次演習および BLP・BBL 関連科目を除いて、原則として全科目を対象に、秋学期 39 科目で授業評価アンケートを実施した。全科目を指定している理由は、「学生による授業評価アンケート」の結果は、授業を担当する教員に対して重要なフィードバック効果をもたらし、授業の質を高めるのに寄与するものと考えているからである。なお、BLP および BBL 関連科目について実施しない理由は、これらの科目が独自性の強い演習系の科目であることから、学部で独自に詳細なアンケートを実施しているためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

まず、回答者数について、履修者数6,004名に対し回答者数1,926名で、回答率（回答者数/履修者数）は32.1%だった。2019年度の回答率は年間ベースであるが52.32%だったので、Web方式による実施の周知や実施の徹底が十分ではなかったと推測する。

次に、学生側の授業に対する取り組みについて2019年度との比較が可能な項目に関して、「この授業に積極的に参加した（I1）」は4.19（2019年度は4.10）で、回答者は積極的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。ただし、アンケート実施科目の回答率が前述の通り32.1%とかなり低いことを考慮すれば、アンケートに回答するような積極的に参加する学生と、そうでない学生の取り組み方に差が生じている可能性が懸念される。

それ以外の授業に対する取り組みとして、「授業以外に学習した時間（I2）」について、平均値は1.44時間（2019年は1.26時間）で、平均では、回答者は昨年度と比べてより多くの学習時間を取ったことになる。しかし、約12.6%の学生が0時間と回答している一方、約26.1%の学生が2時間以上と回答している。また、学年別に見ると、1年1.55、2年1.40、3年1.40、4年1.29となっている。授業規模別（回答者数別）にみると、50名以下、51名～100名が1.33であるのに対し、101名～150名では1.66となっており、規模が大きい方が課題が多く授業外の時間を使っているという可能性がある。いずれにしても、オンライン授業になって課題が増えた、という学生からの指摘がある中で、適切な量の予習・復習につながる課題の工夫などが必要であろう。

授業の進め方について、「各回の授業内容は明確だった（II1）」に関しては、2019年度の4.12から4.23へと評価が高まっている。規模別には、50名以下では4.27、51名～100名が4.23、101名～150名では4.21となっており、それぞれの差は非常に少ないが、規模が小さい方が、授業内容が明確だった傾向にある。「教員の伝え方はわかりやすかった（II2）」に関しては全体の平均が4.08、規模別には、50名以下では4.14、51名～100名が4.07、101名～150名では4.05となっており、これもそれぞれの差は非常に少ないが、規模が小さい方が、教員の伝え方がわかりやすかった傾向にある。

教員の授業改善に向けて、「この授業でよいと思った点はありますか（II3）」において①配付資料は56.9%、③パワーポイントは43.8%が評価しており、オンライン授業の中で教員が工夫したことが推測される。また、「この授業で改善すべきと思った点はありますか（II5）」において55.9%が⑥上記にあてはまるものがないと回答しており、半数以上が評価していると推測できる。

学生が授業に期待するものに関して、「この授業から得ることができたものはありませんか(Ⅲ1)」に関して、評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識(68.4%)、①自分にとって新しい考え方・発想(43.3%)、④学問的興味(31.9%)③自分で調べ考える姿勢(19.6%)となっており、いずれの規模、いずれの学年も同様の傾向が見られた。「③自分で調べ考える姿勢」を選択する学生が比較的少なかったことから、これを改善する必要があると考える。

「この授業を受けて満足した(Ⅲ3)」は2019年度の4.05から4.16に改善しており、オンライン授業に変更した中でも学生から高い評価を得られたといえる。規模別には、50名以下では4.20、51名～100名が4.15、101名～150名では4.14となっており、それぞれの差は非常に少ないが、規模が小さい方が、学生の満足度が高かった傾向にある。一方、学年別に見ると、1年4.02、2年4.16、3年4.28、4年4.25となっており、1年生の満足度が他の学年よりも低い傾向にある。低学年の学生や受講生数の多い授業に対する何らかの対応を引き続き検討していく必要があると思われる。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「授業評価に対する担当教員の所見」では、オンライン授業(リアルタイムやオンデマンド)への移行に伴って、評価項目への教員自身の分析が多くみられた。

肯定的な評価・意見としては、講義内容・レジュメの量の調整、小テストなどを活用した学生の学びの確認、学生とのインタラクションの確保、ゲストスピーカーの招請や、講師自身の経験の共有などに関して、取り組みの効果への言及がみられた。

否定的な評価・意見としては、使用する教材や配布資料の改善、オンライン授業で効果的にグループディスカッションや課題・テストを行う方法、動画などの効果的な活用による効率的な授業運営、リアルタイムでの学生とのインタラクションの確保などの改善、などへの言及がみられた。また、講師、学生の双方でZoomの操作が不慣れなことや音声や画像の不具合などによって授業が円滑に進まなかった点の指摘もあった。特に、リアルタイムの授業では、出席をとる際の方法、発言を成績評価に加味する方法、など学生を公平に扱うことへの指摘があった。また、講義室と異なりオンラインでは特定の学生へ注意をしたことが参加者全員に公開されてしまうので、その点の配慮を求める声もあった。一方、オンデマンドでは、映像の作り方(例:スライドの読み上げにしない)や再生や共有の方法の改善など、ライブ感やインタラクティブ性を確保する旨の要望がみられた。

なお、講義によって所見における記述の有無や詳細度にも差がみられたため、今後の検討課題としたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

「改善に向けた今後の方針」においては、コロナ禍の影響によってオンライン授業が継続する場合への対応や、オンライン授業の利点をより活用する工夫(チャットやブレイクアウトルームの活用)などについて言及がみられた。また、課題を適切な量やレベルにすること、学生の理解を確認する方法の工夫など、学生の学びの質を確保するための教員側の前向きな姿勢が示されている。今後のFD活動でもフォローしていきたいと考える。

4. 今後の改善に向けて

2020年度の評価結果をまとめると、比較的高い評価を得ており、オンライン授業への移行によっても、経営学部では講義の改善が着実に進んでいることがうかがえる。

今後のさらなる改善が望まれる点として、第一にオンライン授業への対応がある。オンラインとなったことで、これまで課題となっていた「静粛性の確保」が問題とならなくなった一方で、教員の見えないところで学生が行っていることを把握したり管理したりすることができなくなった。そのため、より一層学生の授業へのエンゲージメントを高める方法や、学生が不正などを行わない規律ある授業運営が求められている。この課題については、講義形式や受講生の多さが異なるため、一様に論じることは難しいが、より実践的な内容を盛り込んで学生のモチベーションを高めるとともに、授業内での演習やグループ討議などの講義への積極的参加を促す工夫が必要であろう。

また、学生自身から寄せられたコメント（記述による評価部分）にもしっかり耳を傾け、講義を継続的に改善していく必要がある。学生による評価は、教員に講義の問題点を気付かせ、改善・発展を促すきっかけとなる。さらに、オンライン授業であれば他の教員の授業を見学することのハードルは下がり、教員間で工夫を共有したり、科目間のシナジーを図ることも可能と考えられる。双方向型の講義に加えて、学生とのディスカッションやコミュニケーションも教育効果を高めるのに有効である。相対的に少人数の講義で各評価が高いのは、それを物語っている。オンライン授業においても学生の評価は高いので、次年度もその動きが途切れず続くことを期待したい。

4-7 異文化コミュニケーション学部

1. 科目選定方針とねらい

異文化コミュニケーション学部では、①新カリキュラムの検証(2020年度新設科目・2020年度より30人定員を設定した科目)、②全カリ英語教育新カリキュラムの導入および2024年度学部カリキュラム改編を視野に入れた必修・基盤科目の見直しの2点を科目選定方針とした。この選定方針のねらいは、各教員の授業改善という授業評価アンケートの主たる目的を達成するとともに、2024年度の学部カリキュラム改編の参考資料とすることにある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

実施対象科目は科目選定方針①科目(以下、①科目)9科目、同方針②科目(以下②科目)6科目であったが、回答者5名以上でアンケート結果が戻ってきたのは①科目では5科目(履修者数24~34名)、②科目では4科目(履修者数7~21名)で、いずれもオンラインで開講した科目である。回答者数は合計112名、学年比率は1年次10.7%、2年次61.6%、3年次21.4%、4年次6.3%であった。この9科目の結果について概観する。

設問Ⅰ「学生の学習姿勢」(2項目)では、「Ⅰ1 この授業に積極的に参加した」の平均は4.40だった。この質問項目の「大いにそう思う」と「Ⅰ2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間に)」の時間量については、①科目では相関性が見られず、②科目では相関性が見られた。①科目では授業時間内のプログラム、Zoomのブレイクアウトセッション機能を活かしたグループディスカッションなどが、学生自身に授業参加度が高いという認識を与えたと思われる。

設問Ⅱ「教員の授業改善に向けて」(6項目)では「Ⅱ1 各回の授業の内容は明確だった」の平均は4.44、「Ⅱ2 教員の伝え方はわかりやすかった」の平均は4.41だった。①科目ではこの2項目の「大いにそう思う」の数値は必ずしも関係性を示さないが、②科目では「Ⅱ2」の評価及び授業の進め方が明確なほど「Ⅱ1」の「大いにそう思う」の数値が高い傾向がみられた。「Ⅱ3」では「配付資料(授業のレジュメなど)」(43.8%)、「パワーポイント」(58.0%)、「動画等の映像視覚教材」(52.7%)の評価が高く、「板書(電子媒体のものを含む)」(17.0%)が低いのはオンライン授業であったためと思われる。また「シラバス」が19.6%であるのは、履修科目の選択において重要であり、シラバスに記載された授業内容・計画通りに授業は行われるが、授業の評価にあたっては「シラバス」そのものの評価ではなく、実際にどのような教案で、どのような教材を用いるのか等が重要であると感じていることを示唆する。「Ⅱ3」の「その他」にあたるものは「Ⅱ4」の自由記述からうかがえる。①科目では16件、②科目では6件の記述があった。①科目では学生自身が作業をしたり、ディスカッションをするなど参加型のプログラム、教員自身の経験談、ゲスト・スピーカーや動画の活用、授業の振り返りの要点のまとめや課題プリントの作り方、学生の質問に丁寧に対応するなどが、②科目ではディスカッションや「Selfstudyの時間」といった学生自身が主体的に行うプログラムの評価が高い。「Ⅱ5 この授業で改善すべき点とあった点がありますか【複数選択可】」では「配付資料(授業のレジュメなど)」が9.8%で他選択肢より6.2~3.5ポイント高かった。「Ⅱ6」で記述された改善点としては、①科目ではネットワーク環境に起因するもののほか、グループディスカッションについては誰も話さないことがある、授業で用いたパワーポイントを毎回Blackboardにアップしてほしかった、映像や学生の発

表が多かったのはいいが教員自身の講義をもっと聞きたかったなど、②科目ではプログラムの時間配分、授業時の動画、パワーポイントを Blackboard など公開・配布し、授業時に参考にしたり、復習で用いたりしたいという声があった。

設問Ⅲ「学生が授業に期待するもの」(3項目)では「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】」の結果から、授業を通じて吸収したもの—「①自分にとって新しい考え方・発想」(67.0%)、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」(67.9%)—に比べ、本学部が求める「③自分で調べ考える姿勢」(42.0%)がやや低い。しかし学際的な科目展開をしている本学部において、半期の学習で当該科目分野の「④学問的興味」を得た学生は 43.8%おり、それを発展させ、他分野との複合的成果を獲得し得るカリキュラム構築の重要性を再認識した。

設問Ⅳは学部設問項目で、Ⅳ1、Ⅳ2は①科目の2020年度より30名定員とした3科目、Ⅳ3は②科目の新設科目を対象とした。Ⅳ2「レジュメやレポート作成の力がついた」は3.73とやや低めだが、Ⅳ1「この授業の受講者数は適切だった」(4.31)、Ⅳ3「異文化コミュニケーション学部の専門領域(専門的な学び)に対する興味・関心が増した」(4.48)という結果から、全対象科目・全履修者の回答ではないものの、おおむね、今回設問対象とした定員変更科目、新設科目はその目的が学生には評価され、順調に動き出したと考えられる。

全体的に見れば、アンケート結果は概ね高評価であるが、その背景にはアンケート実施対象科目のクラスサイズが小さいこと、それゆえにオンラインで開講した授業とはいえ、教員と学生間のコミュニケーションが比較的とれていたことがあると思われる。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

9件の内、担当教員の所見が記載されたのは①科目4件、②科目4件の計8件であった。いずれもアンケート結果を踏まえて所見を作成している。①科目ではオンラインで開講したため、学生の学習状況を把握しながら授業を進めるには困難が伴うが、授業準備状況や授業内でのディスカッション、授業終了後の課題などから学習状況を把握し、それを反映して授業を展開した様子がうかがえる。②科目ではオンライン開講用に教案を工夫して学生の参加度を高める設計をしたことが学生の満足度や理解を深める等良い方向に作用したのではないかという分析や、授業時に用いるスライドの改善や選択した題材と学生の距離感、もの静かな学生がディスカッションに参加する上で感じる難しさ等に言及している。

4. 今後の改善に向けて

いずれの科目でも、担当教員は所見で個々のアンケート結果を踏まえ、不足している面の改善と高評価を得た面の更なる向上を記載している。2020年度秋学期にオンラインで開講した科目のみが対象となったが、配布資料やパワーポイントの配布時期を含む改善案は、対面式授業においても有効と思われる。特に授業資料やパワーポイントの授業前配布、課題の作り方などは反転授業につながるものでもあり、学部教育のスタイルに多様化をもたらす可能性がある。本学部の特色の一つである学際的な科目展開の強みをいかに発揮するかということも合わせ、今回の授業評価アンケートで得た結果を、2024年度の学部カリキュラム改編に活かしたい。

4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター

1. 科目選定方針とねらい

2020年度はグローバル・リベラルアーツ・プログラム（以下、GLAP）にとっては開設4年目の完成年度にあたり、2020年度に初めて開講される春学期配当の10科目を含め、アンケート実施科目は30を上回る予定であった。順調に実施されていれば、演習系科目を除くGLAPの科目のほとんどについて授業評価アンケート結果を用いて通覧し、完成年度経過後のGLAPのカリキュラムの点検作業にいかす計画であったが、コロナ禍のために、オンライン授業がなされた秋学期科目のみの、また前年度とは異なる設問項目によるWeb方式でのアンケート調査となったことから、ここでは、当初の計画からすれば質量ともに不十分な総評を記さざるをえないことになった。

GLAPはその規模の小ささから、毎年度、本欄において、データ利用にあたっては特に注意が必要である旨を断っているが、2020年度については、データ集計が行われた科目数11、延べ回答者数137（2019年度は、それぞれ19、269であった）となったことで、その点の注意がいっそう重要である。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2020年度におけるGLAPの科目履修を全体としてとらえる指標として、2019年度のデータと比較可能と思われる「この授業を受けて満足した」の総平均の数字を見ると、2019年度4.03に対して、2020年度は4.28と上昇している。また、「各回の授業内容は明確だった」の数字も、2019年度4.09から2020年度は4.34に上昇している。「教員の伝え方はわかりやすかった」も、2019年度の類似設問「わかりやすい授業だった」の結果と比較すると、2019年度3.94が2020年度は4.14となっている。これらの高い評価値から見る限り、2020年度GLAPの授業は、当初想定されていなかったオンライン形式へと変更を余儀なくされたものの、科目担当者・履修学生双方の努力によって、各科目の授業のねらいをおおむね実現することができたという評価が可能と考えられる。

しかし、例年、GLAPが重視している「自分で調べ考える姿勢」（が授業から得られたか）という、その後の学修につながっていく効果という点については、2019、2020年度で設問／データ集計の形式がまったく異なっているために判断には慎重を要するものの、2019年度（5件法）の4.00から2020年度（二者択一で）肯定40.1%と、評価が明らかに下がっているように感じられる。また、「学問的興味」についても、2019年度（5件法）の4.06から2020年度（二者択一で）の肯定51.8%へと、同様の傾向が見られる。これらのデータは、学生参加型の授業を通じて学生の自律的な学びの姿勢を育てていこうとするGLAPのカリキュラムとしては、2020年度のようにオンライン形式になった場合には、授業のいっそうの工夫が必要であるということを示唆しているようにも思われる。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2020年度のGLAP科目の授業評価アンケートは、冒頭でも述べたように、集計対象となった科目数が少なく、そのうえ、科目担当者から所見票の記入をいただけなかったケースが例年よりも多くあったため、ここで所見票のまとめ作業を行う対象となった科目はごく少

数にとどまった。科目担当者から所見票の記入をいただけなかったケースが少なくなかったことについては、調査の方式が、例年のように授業時間中に自らの管理下で履修学生にアンケート記入をさせる形式ではなくなったことで、本アンケート制度に対する教員の注意が弱くなっていたという背景事情も考えられるが、もとよりあってはならないことであり、調査にご協力いただいた履修者に対してお詫びするとともに、今後は GLAP としても科目担当者に対する注意喚起を行うことをお約束する。

提出いただいた所見票に見られる全般的傾向は、科目担当者は、学生から相対的に高い評価を得たことで授業内容・方法等に関する自らの方針が基本的に間違っていなかったということを確認しつつ、データを参照して、さらなる授業改善を志向するというものである。2020 年度に特徴的なのは、オンライン形式にいつそうよく適合した授業をめざすという記載であるが、例年同様に、(対面・オンラインという形式に関係なく) よりよい授業をめざすというものも見られた。

3-2 学生の意見(自由記述)の受止めについて

学生の自由記述部分についても、例年の授業評価アンケートとは様式が異なっていたが、学生による実際の記入内容は、オンライン授業に関連する(主として技術面からの)肯定的評価や改善要望が目立った点を除けば、例年とあまり変わらなかった印象を受ける。これに対して、科目担当者も、適宜、学生の意見を参照しつつ、「授業評価に対する担当教員の所見」・「改善に向けた今後の方針」欄の執筆をしていた。

4. 今後の改善に向けて

GLAP は 2020 年度で完成年度に達し、そのカリキュラムの全面的な点検作業を行うべき時期にある。2021 年度は、演習系科目を除きできるだけ多くの科目でアンケートを実施し、カリキュラム点検作業の重要な素材を得たいと考えている。その際には、Humanities、Citizenship、Business という 3 つの専攻分野ごとに科目履修のあり方に違いが見られるかといった点の検討も、もし可能であれば行いたい。

4-9 観光学部

1. 科目選定方針とねらい

次のような方針で授業評価アンケートの実施科目を設定した。

- (1) 原則として学部方針によって選定する2年間のうちに全教員1回1科目で実施する。
- (2) 演習科目は対象としない。
- (3) 複数教員担当科目は対象としない。
- (4) 集中講義は対象としない。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

実施科目数は41科目、回答者数は2,005名であった。

設問Ⅰ1「この授業に積極的に参加した」に対する平均値が4.20、Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」に対する平均値が4.43、Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」に対する平均値が4.35、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」に対する平均値が4.35など、いずれも例年通り高い数値となっている。

学科別の結果については、「この授業を受けて満足した」に対して、観光学科が4.36、交流文化学科が4.34と、顕著な差は見られない。

授業規模別の結果については、「この授業を受けて満足した」に対して、50名以下の平均値が4.43、51～100名の平均値が4.31、151名以上の平均値が4.41と、顕著な差は見られない。(101～150名は該当科目が1科目のため省略。)

学年別の結果については、「この授業を受けて満足した」に対して、1年の平均値が4.34、2年の平均値が4.31、3年の平均値が4.35、4年の平均値が4.52と、顕著な差は見られない。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1. 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

授業のねらいがおおむね達成されているとする所見が多く見られた。コロナ禍によりオンライン中心の授業となった。そのことを肯定的に捉える意見（遠方のゲストを招くことができた等）と、否定的に捉える意見（コミュニケーションが円滑ではなかった等）がともに見られた。

3-2. 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

オンライン授業にとまらない、さまざまなLMSツールの活用が試みられた。今後も積極的に活用していくとする所見がいくつか見られた。

授業中の学生からの質問・コメントに対するフィードバックに要する時間と、当該単元における授業進行とのバランスに苦慮する所見がいくつか見られた。

4. 今後の改善に向けて

オンライン中心の授業となったが、従来通り学生の授業に対する満足度は高かった。

教員側からは、オンラインの利点を肯定的に評価する声が多く見られた反面、コミュニケーションが不十分であるなど、改善の余地を指摘する意見もあった。学部として、FD活動などを通して情報を共有していきたい。

4-10 コミュニティ福祉学部

1. 科目選定方針とねらい

2020年度における科目選定方針は、以下の通りである。

- (1) 学部専任教員（助教含む）1科目以下の実施を原則とする
- (2) 資格科目を優先する
- (3) 演習科目は対象外とする
- (4) 昨年度実施科目を優先する

以上の結果、24科目を授業評価アンケートの対象科目とした。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

回答率は53.5%であり、学部の中では2位の高い回答率を示している。各教員の積極的な協力の呼びかけが功を奏したものであると思われる。しかしながら、これはコミュニティ福祉学部に限ったことではないが、昨年度の値（69.38%）と比較すると大幅に回答率は下がっている。オンライン授業への移行によって授業評価アンケート自体もオンラインによって実施したことが影響していると思われる。

設問項目別平均値では、「Ⅰ 学生の学習姿勢」のうち「この授業に積極的に参加した」（Ⅰ1）は、4.24と高い値を示している。「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」（Ⅰ2）は1.41時間であり、昨年コミュニティ福祉学部の平均値（0.89）を大幅に上回っている。オンライン授業へ移行したことにより、課題などが増えた結果と思われる。ただし、この値の標準偏差は、昨年よりもかなり大きくなっており（1.01→2.48）、授業時間外に長い時間学習している学生とそうでない学生とで二極化していることが示唆される。

「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」（「各回の授業内容は明確だった」【Ⅱ1】=4.37、「教員の伝え方はわかりやすかった」【Ⅱ2】=4.28）と、「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」（「この授業を受けて満足した」【Ⅲ3】=4.33）については高い評価であり、これらの数値は、昨年度よりもすべて高くなっている。コミュニティ福祉学部では、オンライン授業のノウハウを持つ教員による「オンライン授業講習会」をFD委員会として2回開催し、研修を重ねてきた。こうしたことが学生からの高い評価につながったものと思われる。

設問項目別回答割合では、「Ⅱ3 この授業でよいと思った点がありますか」のうち、「配付資料」（Ⅱ3①）【45.5%】、「パワーポイント」（Ⅱ3③）【52.2%】、「動画等の映像視覚教材」（Ⅱ3④）【35.2%】の項目が高い値を示している。オンライン授業へ移行したことにより、これまで以上に資料の配付、視覚的な工夫を凝らした授業が求められており、それに対応したことが評価となって表れたと思われる。一方で、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか」について、おなじく「配付資料」（Ⅱ5①）【14.3%】の割合が高かった。この理由を探るために、自由記述を見たところ、配付資料に対する改善点としては1)「授業の前に余裕を持って配付してほしい」という配付のタイミングについてのものと、2)「資料そのものを配付してほしい」といった、配付の有無に関するものの2点に大別できることがわかった。前者はオンライン授業に移行して新たに生じた課題であり、また学生の自宅にプリンターがあるか否かという点ともかかわっているため、今後もオンライン授業が続くとすれば、学部全体としてシステムを整えていく必要がある点と思われる。後者は、以前より学生の意見として挙げられていたことではあるが、配付しないことで集中力を高める

という教員側の目的もあると推察されるため、この点については今後の検討課題であろう。

「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」では、「自分で調べ考える姿勢」(Ⅲ1③)【24.9%】、「学問的興味」(Ⅲ1④)【38.6%】といった、学生の主体的・能動的な学習態度に関する項目の割合が低い。オンライン授業になったことで、こうした態度の涵養が一層求められるため、この点をどう改善していくかも学部全体で取り組むべき課題である。

学科別で、設問項目別平均値、設問項目別回答割合をみると、前者はおおむねどの項目においても同程度の評価であるが、後者についてはやや割合が異なる項目がみられる。具体的には、「配付資料」(Ⅱ3①)、「動画等の映像視覚教材」(Ⅱ3④)、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」(Ⅲ1②)である。データを共有し、こうした違いがなぜ生じるのか、どうすれば高いレベルで平準化を目指せるかについて、教員間で議論する場が必要である。

なお、冒頭に触れたように、今回のアンケートは昨年度に比べて回答率がかなり下がっている。オンライン授業になり、モチベーションを維持することが難しかった学生も多いと推察される。その意味で、アンケートに回答している学生は、モチベーションの高い学生であると蓋然性が高い。今回のアンケートの数値は、こうしたバイアスを考慮したうえで受け止める必要があることを付言しておきたい。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

教員自身も初めてのオンライン授業であったことから、アンケートでの評価を受けられること自体に感謝を表している記載が多かった。試行錯誤しながら授業を展開していることが学生の評価につながっていることが確認でき、今後もそうした工夫を継続していきたいといった前向きな回答がどの教員にもみられた。

改善点に関する評価や意見については、すべての教員がそれらを真摯に受け止め、今後の授業運営に生かそうとする姿勢がみられた。上述したように、授業の資料に関する意見が多かったが、この点については配付するタイミングを早くする、配付する媒体に考慮するなど具体的な対応策についての記載があり、次年度以降、改善されることを期待させるものとなっていた。

4. 今後の改善に向けて

まずは、回答者の偏りを是正する意味でも、アンケートの回答率を上げることが必要である。特にオンデマンド授業の場合は、直接アナウンスができないために、回答率が低くなりがちである。またリアルタイムのオンライン授業であっても、周知のタイミングによっては回答率が低くなることもある。オンライン授業が継続されていくとすれば、まずはこの点を改善していくことが必要となるだろう。

学生の中で授業時間外の学習時間に開きがみられること、学生の主体的・能動的な学習態度に関する項目の割合が低いことは、オンライン授業へ移行したことによって教員側にさらに創意工夫を凝らした授業を展開することの必要性を投げかけている。適正かつ適度な量の課題等を課すことで改善を図っていくなどの方策が考えられるが、一方で、オンライン授業になり課題に追われているといった学生側からの声もあり、どうすれば過度な負担にならない範囲で、学生全体の授業外の学習時間を増やせるか、主体的・能動的な学習態度をはぐくむことができるかを検討していく必要があるだろう。

また、オンライン授業は担当する教員によって授業の質が大きく異なることが各所で指摘されている。授業評価の高い教員のオンライン授業における工夫を可視化し、学部間、ひいては大学全体でその知恵を共有していくことが必要であると思われる。

4-1-1 現代心理学部

1. 科目選定方針とねらい

COVID-19の感染拡大により、秋学期にのみ実施された。そのなかで、心理学科・映像身体学科のそれぞれにつき、学科内の科目カテゴリーのバランスに配慮しつつ、15科目を選定した。例年通り、「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は、原則として実施対象外とした。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

回答率

51.6%は、全学平均45.8%と比較すれば高いものの、例年と比較すれば低い。とはいえ、授業形態と回答形式が大きく変わり、学生への依頼から暗黙の強制力が失われたことを考えれば、やむをえないものと考えられる。

I：学生の学習姿勢

「I1：この授業に積極的に参加した」の平均値は4を超えており、学生は極めて積極的に授業に取り組んだと言える。「I2：この授業に関連して、授業以外に学習した時間」も、標準偏差は大きいものの、およそ80%が1時間以上と回答しており、平均値も1.44時間となっている。平均時間は昨年度よりも長くなっており、オンライン化に伴う学生の学習時間の増加が示唆される。

II：教員の授業改善に向けて

「II1：各回の授業内容は明確だった」「II2：教員の伝え方はわかりやすかった」のいずれについても平均値が4点を超えており、わかりやすさという点での授業の評価は非常に高かったと考えられる。「II3：よいと思った点」については、配付資料や動画という回答が多く、オンラインによる授業はおおむねうまく運営されたと考えてよい。「II5：改善すべき点」については、ほとんど言及はなかった。

III：学生が授業に期待するもの

「III3：この授業を受けて満足した」の平均値は4点を超えており、満足度という観点からもオンライン授業がうまく運営されたことがわかる。

「III1：この授業から得ることができたもの」への回答からは、おおむねこちらが期待した学習がなされたと判断することができる。ただ、選択肢③の「自分で調べ考える姿勢」については回答率が16.6%と低く、オンライン化という形式から、どうしても受け身の受講姿勢になりやすいのかもしれない。ただし、I2の学習時間に見られる学習時間の増加と考え合わせると、課題の量が増えたことで、学習が受動的に感じられたという可能性もあるだろう。

IV：学部等による設問

2020年度は、三つの質問を行った。それぞれ「IV1：この授業の受講者数は適切だった」「IV2：このオンライン授業の運営は適切になされた」「IV3：(対面のみ)この授業の設備・環境に満足している」である。いずれの得点も平均値が4を超えており、これらの回答からも、授業が適切に運営されたと判断することができる。

学科別データ、学年別データ、授業規模別データ

学科別データからは、おおよその傾向に学科差はないことがわかる。差があるのは二点で

ある。第一に、「Ⅱ3：よいと思った点」として、心理学科では配付資料の評価が高い一方で、映像身体学科では動画等の映像視覚教材の評価が高いこと。これは、学科の特性を反映している。第二に、「Ⅲ1：授業から得ることができたもの」として、映像身体学科では「自分にとって新しい考え方・発想」が高いことである。この結果の意味は不明確である。そのほか、Ⅱ4の自由回答の回答率が心理学科のほうが高い傾向にあったが、内容を確認してもその理由はわからなかった。

学年別データからは、特段のパターンは確認できなかった。1年生がオンライン環境に強い不満を抱いていることが懸念されたが、一定の成果を得られたと判断できる。たとえばⅢ3の「満足度」については、1年生で選択肢の5を選んだ回答者は51.2%、4を選んだ回答者は40.3%で合計すると90%を超えていた。授業規模別データは、実施科目数が少なく、51名以上の科目について、最大でも3つの測定値しか得られなかったため、分析を行うことができなかった。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学科を問わず、オンライン化によるさまざまな問題を意識しつつ、授業の特性に応じて対処をしていたと思われる。そのなかで、学生から一定の評価を得たことに対する安堵が見られた。

1) 所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

オンライン化もあり、もっとも目立つのはコミュニケーションの回路が開いていることに対する高い評価である。また、自室から受講していることを反映してか、動画の利用を含む資料の多様性や主体的に参加できるワークなどの評価が高いように思われる。

改善点として目立つのは、オンライン授業の技術的側面、難易度の高さ、授業時間の超過である。

2) 上記1)に対する担当教員の所見のまとめ

全体として、技術的な側面についての所見が目立った。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

各自がそれぞれの授業に向けられたコメントに対して改善を示しているためまとめるのは困難であるが、コミュニケーションの充実、解説時間の増加、内容の改善があげられていた。

4. 今後の改善に向けて

極めて特殊な状況下で運営された2020年度秋学期についてのデータから、一般的な改善策を引き出すのは困難であるし、生産的だとも言い難い。2021年度についてはオンライン授業が継続されるため、少なくともこの年度については有用な情報が得られたと考えられる。

まず大前提として述べるべきは、全体として評価は高く、授業運営は成功しているということである。したがって、大きな「改善」を無理に行う必要はない。ただし、その中でオンライン授業において適切な授業運営を、個々の教員が考えていく必要があると思われる。学

生の自由回答から有益と考えられるのは、学生とのコミュニケーションの回路をより広くすること、1人1人の学生の授業内での学びに個別に配慮すること、対面よりも実際に学生が行う活動を増やすことである。具体的には、リアルタイムでの質疑を、授業時間の範囲内で積極的に取り入れること、学生の理解度を確認する機会を作ること、ワークの実施やアンケート機能の利用などが考えられるだろう。

2020年度の自由回答では、授業の難易度が高いという指摘が複数の科目にわたって見られた。この問題についてはいくつかの可能性が考えられ、改善を提案することはできない。オンラインという授業形態のために、他学部、他学科からの受講者が多かったことから生じている可能性や、教員も学生も不慣れなために、オンラインでの情報伝達が不十分であった可能性などが考えられる。各授業にはカリキュラム達成のため、伝達されるべき内容があり、安易に内容の簡略化を行うべきではない。2021年度以降の変化なども確認しながら、慎重に判断していく必要があるだろう。

4-12 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目

1. 科目選定方針とねらい

2020年度の「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」では、

- (1) 総合系科目「学びの精神」(FH)
- (2) 総合系科目「多彩な学び」の以下5カテゴリにおける講義系科目（コラボレーション科目を含む）
 - ①人間の探究 (FA)、②社会への視点 (FB)、③芸術・文化への招待 (FC)、
 - ④心身への着目 (FD)、⑤自然の理解 (FE))

を対象に1教員1科目の実施とする。

また、これらに追加して

- (3) 「立教ゼミナール発展編」の全科目
- (4) 総合系科目「多彩な学び：⑥知識の現場 (FV)」におけるグローバル教育センターが提供する全科目

を対象に授業評価アンケートを実施した。実施合計は198科目であった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

今年度（2020年度）春学期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、すべての授業がオンラインとなったことにより、従来どおりのマークシート方式による「授業評価アンケート」が実施できず中止となったが、秋学期は「立教時間」を用いたWeb方式による「授業評価アンケート」の実施が可能となった。よって、以下に登場する集計データは、すべて秋学期の「授業評価アンケート」に基づくものである。また、昨年度（2019年度）まで「全学共通カリキュラム運営センター」の集計は、「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」のみを対象としていたが、今年度より、新たに「全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目」についても集計を行うこととなった。よって本稿では、今年度の「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」の集計データと、昨年度の「全学共通カリキュラム運営センター」の集計データの比較分析を行っている。以下、いずれも「総合系科目」と称する。

今年度の総合系科目の「履修者数」は、23,929名であった。「学部等別履修者数」をみると、今年度の全14学部等のなかでも、また昨年度までの全13学部等のなかでも、ともに1位に該当する。但し、昨年度の41,618名から、今年度は17,689名の大幅減となった。

「回答者数」で見ても、今年度は9,539名（1年：4,668名、2年：2,598名、3年：1,611名、4年：654名、その他：8名）と、昨年度の27,281名から17,742名の大幅減である。こうした要因として、秋学期のみの実施だったことの他に、①オンライン授業に伴う負担軽減のため、履修定員を約3分の2（「学びの精神」：200名→130名、「多彩な学び」：300名→200名）としたこと、②1科目の履修定員は絞り込んだものの、そもそも科目数の多い「学びの精神」の開講学期が「授業評価アンケート」を中止した春学期に集中していたこと、などが挙げられる。こうして自動的に、今年度の「授業評価アンケート」の「履修者数」および「回答者数」は激減した、と考えられる。これに対して、今年度の「回答率」39.9%という結果は、昨年度の65.55%、一昨年度の66.50%から大きく後退しており、全14学部等のなかでの順位は10番目と低位にある。「回答率」の低さについては、上述した「履修者

数」および「回答者数」の激減による影響というよりも、むしろ以前から受け継がれてきた、いわば積年の課題として位置づけるのが適当であり、その早急な改善が求められる。

つづいて、昨年度との比較を中心に、今年度の「設問項目別平均値」から読み取れる内容について以下に列記する。

「学生の学習姿勢（Ⅰ）」では、すべての設問項目において、今年度の数値は昨年度を上回る結果となった。「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」では、昨年度 4.11 から今年度 4.22 へ、「この授業に関連して授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」でも、昨年度 0.92 から今年度 1.30 へ改善している。この間のオンライン授業における教員・学生双方の試行錯誤の成果によるもの、として受け止めたい。しかし、後者の「この授業に関連して授業以外に学習した時間（Ⅰ2）」については、改善の傾向は認められるものの、改善の余地もまた十分に残されており、学生側・教員側のさらなる努力が期待される。

「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」では、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」において、今年度の数値は昨年度を上回る結果（4.23 から 4.37 へ）となったものの、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」においては昨年度 4.35 から今年度 4.27 へと後退した。「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」については、オンライン授業との親和性の観点から、昨年度の設問項目のうち、「映像視覚教材（パワーポイント、ビデオなど）の使用が効果的だった（Ⅱ8）」の数値と比較している。教員と学生との双方向性の確保など、オンライン授業における課題は残されたままであり、教員側のさらなる取り組みが求められよう。その一方で、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」の 4.37 という数値は、今年度すべての「設問項目別平均値」のなかでも最大値であった。オンライン授業だからこそ、より「明確」な「授業内容」として学生に伝えることができた可能性もあり、この点に関してはさらなる検証が求められる。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」では、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」という設問項目において、昨年度の 4.15 から今年度は 4.33 へと、こちらも大きく数値が改善されている。こうした結果からも、オンライン授業そのものに課題は残るものの、従来の対面式授業では得られなかった独自のメリットがある、と考えられよう。オンライン授業の活用方法については、引き続き検討していく価値があるといえよう。

「学部等による設問【学びの精神のみ対象】（Ⅳ）」では、すべての設問項目において、今年度の数値は昨年度を上回る結果となった。「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた（Ⅳ1）」では昨年度 4.19 から今年度 4.27 へ、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた（Ⅳ2）」でも、昨年度 3.96 から今年度 4.03 へと数値が改善している。平均値の伸びそのものは決して大きくないが、改善しているという事実は評価できる。但し、今年度の「学びの精神」のアンケート科目数は大幅に減少しているため（4 分の 1 程度）、今年度の結果については、あくまで参考程度にとどめる必要があるのも事実である。また、今年度はすべてオンライン授業であったため、昨年度まで設問項目にあった「教室の大きさ」や「受講者数」、「教室の環境や設備」については比較することができなかった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が終息した後に、この点に関しては改めて比較分析を行う必要があるだろう。

最後に、分析の視点を変え、今年度の総合系科目の集計データを俯瞰し、その特徴を明らかにしたい。

まずは「学科等別」に細分化し、それぞれの平均値を比較したい。ここで目を引くのは、昨年度同様、今年度も「【多彩-6】知識の現場 (FV)」における平均値の高さである。なかでも、「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」では 4.77、「教員の伝え方はわかりやすかった (Ⅱ2)」では 4.66 と、非常に高い平均値となっている。少人数クラス制を採用している点を差し引いたとしても、こうした学生からの高い評価は特筆される。

次に「授業規模別」に細分化し、それぞれの平均値を比較すると、「学生の学習姿勢 (Ⅰ)」では、「50 名以下」、「101～150 名」、「51～100 名」の順に平均値が下がっていくのに対し、「教員の授業改善に向けて (Ⅱ)」および「学生が授業に期待するもの (Ⅲ)」では、授業規模が大きくなればなるほど平均値が上昇する傾向が見られた。逆に、「学部等による設問【学びの精神のみ対象】 (Ⅳ)」では、「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた (Ⅳ1)」において授業規模が大きくなるほど平均値が下がり、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた (Ⅳ2)」においては授業規模が大きくなるほど平均値が上がるなど、傾向と呼べるものを見出すことはできなかった。

さらに「学年別」に細分化し、それぞれの平均値を比較すると、昨年度同様に今年度も、全般的に「4 年」の平均値が高いことがわかった。但し、学年が上がるごとに数値が上昇しているという単純な話ではなく、「学生の学習姿勢 (Ⅰ)」、「教員の授業改善に向けて (Ⅱ)」、「学生が授業に期待するもの (Ⅲ)」では、すべて「1 年」から「2 年」にかけて数値が落ち、「2 年」から「3 年」にかけて「1 年」の水準に回復。その後、「3 年」から「4 年」にかけて最大値を記録する、という傾向にある。また、「学部等による設問【学びの精神のみ対象】 (Ⅳ)」では「授業規模別」と同様、傾向を見出すことはできなかった。

以上、今年度の総合系科目の大まかな特徴として、①「学科別等」の視点からは「知識の現場 (FV)」の平均値の高さ、②「授業規模別」の視点からは「学生の学習姿勢 (Ⅰ)」における中規模授業の平均値の低さ、③「学年別」の視点からは「4 年」の平均値の高さ、がそれぞれ明らかにされた。

①については「3. 各カテゴリの総評」において、後ほど詳しく分析がなされるため割愛したい。また、②については、オンライン授業であっても、授業規模が受講生に与える影響は小さくなく、この点についてはより詳細な追加分析が必要となろう。一つの可能性として、SA や TA といった授業補助者との関連性が考えられる。最後に③については、昨年度同様に今年度も、学生側の基盤的素養の醸成とともに、授業内容 (学問) への理解度と満足度も連動して向上する、という結論に至った。コロナ禍という難局に際しても、学生の成長を促すべく、大学全体による絶え間ない努力が必要とされる。

3. 各カテゴリの総評

3-1 学びの精神 (FH)

5 年目を迎えた 1 年次生対象の「学びの精神」は、大学での学びのスキルを身に付け、主体的に学ぶ姿勢を養い、立教生として居場所感を醸成することを目的としている。「学びの精神」は春学期の開講が中心であるが、2020 年度は春学期科目がアンケートの対象外となったため (2020 年度春学期に予定していた「学びの精神」アンケート対象科目数は約 80 科目であった)、アンケート実施科目数は大幅に減少し、24 科目にとどまった。このため、以下の結果が通年のデータとはなっていないこと、必ずしもこれまでと比較可能な数字とは

なりえていないことを最初にお断りしておきたい。

「授業時以外での学習時間（I2）」は、初年度の2016年度は0.68時間と少なく、学びの精神の趣旨が徹底されていないのではないかと懸念されたが、2017年度の0.75時間、2018年度の0.78時間、2019年度の0.84時間と順調に増加し、2020年度は1.32時間と大幅に増加した。学年別でも、1年生は1.28時間となっており、初年度の学生にとっても、授業時間外での学習がしっかり行われたことが確認できる。オンライン授業という形式がこうした時間を確保したのではないかと推測されるが、今後もこうした傾向が続くことが望ましい。授業改善に向けて(II)のうち、「各回の授業内容は明確だった(II1)」が4.33、「教員の伝え方はわかりやすかった(II2)」が4.25となっており、配付資料やパワーポイントなどの、授業をすすめるにあたって利用されたツールも高評価を得るなど、オンライン授業が続くなかで、科目担当者の努力が高く評価されたと考えられよう。引き続き科目担当者には、授業補助者を積極的に活用していただくなどして、科目群の趣旨に沿った授業運営を期待したい。

学生が授業に期待するもの(III)については、「この授業を受けて満足した(III3)」が4.26となっており、「多彩な学び1～5」(4.29～4.38)と比較すると若干低い数値だが、2018年度の3.93や2019年度の4.06と比べると高い数値になっている。大学での学びの導入となる科目として一定の評価を受けていると思われる。また「この授業から得ることができたもの(III1)」では「自分にとって新しい考え方・発想」が61.7、「自分で調べ考える姿勢」が22.1と、どちらも「多彩な学び1～5」よりも高い数値が出ており、「学びの精神」科目が有効に機能していることを感じさせる。

「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた(IV1)」については4.27と高い評価を受けているが、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた(IV2)」についてはそれよりも0.24ポイント低い評価であったことは例年の傾向を踏襲しており、2020年度も、高校との学びの違いは分かったが、大学で学ぶ心構えができたと言えないと感じている学生が多いことを示している。「学びの精神」を履修した1年次生が、2年次以降に自信をもって大学での学びを実践できるようになることを期待したい。

RIKKYO Learning Styleは2021年度から6年目に入った。1年次に履修した「学びの精神」がその後の学びにどのような影響を与えるのか、卒業時に振り返ってみて「学びの精神」が役立ったと感じているのかなどを問うことで、検証していく必要があるだろう。

3-2 多彩な学び

1) 人間の探究 (FA)

2020年度の秋学期の資料は、全面的なオンライン授業に関するものであるため、最も重要な総評の課題は、対面授業とオンライン授業との授業の差異を確認するところにある。以下で、2018年度、2019年度と比較するが、2020年度（秋学期のみ）とそれ以前のアンケートにおいては、春学期の科目との比較は出来ないこと、また質問の設定が異なるため、逐次的な比較は難しいことをお断りしておく。なお、同様の比較は、「芸術・文化への招待(FC)」においても試みた。

まずオンライン授業となったことで、池袋・新座のキャンパスの壁が取り払われた。アンケートでは履修者の所属が判明しないため、対面授業でキャンパスをまたぐ履修者の動向

を把握することは出来ない。今後、全学共通カリキュラム運営センターとして履修者の動向の把握を、アンケートとは別に、実施して検証する必要がある。全学共通カリキュラム運営センターとしては、オンライン授業では学生の所属学部のキャンパスに拘束されずに履修が可能となる点が、大きな利点となるものと考えられる。同一科目コードの回答者数の増減を2018年度・2019年度と比較すると、明確に増えている科目13、減少した科目15となっており、大きな差異を認めることは出来ない。

授業に対する積極性（Ⅰ1）の項目を見ると、前の年度よりも積極的に学んだ（大いに思う＋思う）とする回答が増えた科目が19であるのに対して、減ったとする科目は4、大きな差異が見られない科目6となっており、オンライン授業の方が対面授業よりも、履修者の積極性が増す傾向を認めることが出来る。その理由として、対面の大人数授業の場合、私語のために集中できない履修者（本人が私語する場合と、周囲の私語で注意が削がれる場合とがある）が多く見受けられるが、オンライン授業ではこうした阻害要因が除去されるということが考えられる。

一方、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」に対応する項目として、2018・2019年度の「聞きやすい話し方だった（Ⅱ1）」「各回の授業のねらいは明確だった（Ⅱ3）」「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ4）」を勘案して比較したところ、伝わりやすさが増した科目9、減った科目10、大きな差異が見られない科目10となっており、伝達については全体的な傾向よりも、個々の担当教員のオンライン授業に対する習熟度が左右するものと推定される。

履修者の積極性を引き出し、授業内容が明確に伝わった授業について、担当教員の所見欄を見ると、Zoomのチャット機能を活用したり、立教時間などを用いてリアクションペーパーを回収したりするなどの工夫をしていることが明らかである。学生のコメントで、「オンライン授業で教員との距離を感じたが、リアクションペーパーに回答があると距離が縮まった」というものもある。また、コラボレーション科目については、遠隔地に在住のゲストスピーカーを招くことが出来るため、内容の多様性を実現できたというコメントが出されている。

2) 社会への視点 (FB)

「社会への視点 (FB)」は計50科目に対してアンケートが行われた。点数評価の結果については、今年度は回答者数が相対的に多いこともあり、総合系科目の平均値に近づく傾向がある。その上で平均値と比較すると、「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」がやや低いが、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（Ⅰ2）」はやや長かった。また、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」がやや低いが、他方で、自由記述による「Ⅱ3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください（Ⅱ4）」の項目の回答割合が高く、ゲストスピーカーの存在を肯定的に評価する記述がみられた。なお、昨年度平均を上回っていた「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は、昨年度より高くなっていたものの、今年度は平均値よりやや低かった。関連項目をみると、昨年度は非常に高かった「授業で扱った内容が持つ、現代に通じる普遍的な意味（Ⅲ4）」といった質問項目が削除されており、かわりに採用された新しい質問項目「学問的興味（Ⅲ1④）」が低い、という結果がみられた。「社会への視点」というカテゴリの性格とあわせて、今後、傾向を注視していく必要がある。

所見票については、科目担当者の記述から、オンライン授業に際して、学生の意見に向き合いながら、さまざまな試行錯誤と改善への工夫を重ねていることが見て取れる。各教員が取り組んだ課題として、講義のスピードの調整や資料配付の方法の検討、チャット等での双方向性の確保などが挙げられていた。また、LMSを用いた毎回の確認テスト等、対面授業に戻っても有効な取り組みも挙げられていた。他方で、オンライン授業においては、教室内の物理的環境の問題が生じない反面、通信環境に関する問題も指摘されていた。映像視覚教材については、著作権の問題もあり、大学全体でオンライン授業対応の視聴覚資料の充実を図る必要も指摘されていた。個々の教員のみならず、大学全体としても、検討を重ねていく必要がある。

3) 芸術・文化への招待 (FC)

先述の「人間の探究 (FA)」と同じ目的で、2018・2019年度の同一科目コードの科目と比較した。回答者は軒並み減少している。この点について、教員の所見欄に「対面授業では、基本的に全員がアンケートに参加するが、オンライン授業では、協力したくない学生は各自の端末で何の作業もしないことが容易に推測される」とある。対面授業では教員の監督のもとでアンケートに回答するが、オンライン授業の場合には回答率が低下する恐れがある。授業をポジティブに評価する履修者に、回答が偏っている可能性を考慮すべきであろう。

積極性 (I1) については積極的に学んだと回答する比率が増えているものが多い (22科目中 14)。その背景として、授業の明確さ (II1) については、明確とした履修者の比率が増加した科目 13、増減が顕著でない科目 8、明確とした履修者の比率が減少した科目 1となっており、他のコースと比較して、オンライン授業が明確さを損ねていないことが読み取れる。「この授業でよいと思った点 (II3)」という設問に対して、「動画等の映像視覚教材」を挙げている履修者が多く、芸術系の科目において音楽や美術、映像などの作品を、積極的に教材として提供したことがその背景にあるものと推定される。

4) 心身への着目 (FD)

心身への着目 (FD) は 18 科目でアンケートが実施され、2020 年度の回答者数は 1,389 名であった。「学生の学習姿勢 (I)」、「教員の授業改善に向けて (II)」、「学生が授業に期待するもの (III)」ではほぼ総合系科目の平均を上回る結果となった。特に「各回の授業内容は明確だった (II1)」と、「この授業を受けて満足した (III3)」においては、それぞれ 4.43、4.38 という高い評価を得ており、オンライン授業という中でも授業内容が適切で効果的に授業運営がなされていたことが分かる。また、「この授業でよいと思った点 (II3)」において、「配付資料 (授業のレジュメなど)」と「パワーポイント」が高い割合 (それぞれ 61.5%、51.1%) となっており、こちらについては担当教員の工夫や努力が認められた結果と判断できる。「この授業から得ることができたもの (III1)」においては、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が他と比べても高い割合 (63.1%) となっているのも、この科目の特性、そしてねらいを達成できたと考えられる。

アンケートの自由記述を見ると、丁寧な説明や配付資料が授業の理解に役立ったとのコメントが多くあったので、今後も継続してこれらの手法を有効活用していけると良いと思う。しかしながら、授業時間が長い、リアクションペーパーを書く時間が短い、提出の期限

が短いなど、オンライン授業ならではの不満点も散見された。この点に関しては、担当教員と情報を共有して改善に取り組んでいきたいと思う。

評価に対する担当教員の所見票を見ると、概ね高い評価を受け担当教員も満足しているとの記述が多く見られた。初めてのオンライン授業で試行錯誤の連続であったようだが、映像資料やパワーポイント資料を工夫し、有効的であったことを具体的に挙げて授業改善に取り組む事項を示す教員も多く、周到的な準備を進めている様子が伺えた。

5) 自然への理解 (FE)

「自然への理解」では 26 科目でアンケートが実施され、1,282 名の回答があった。

学生の学習姿勢 (I) の項目を見ると、「この授業に積極的に参加した (I1)」の項目が総合系科目の全カテゴリの中で最も低い値 4.17 であった。また、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (I2)」は総合系科目の平均よりも低い値 1.20 であったが、他のカテゴリと比べてもそれほど低い値ではないことから、授業を受ける中で自発的な学習に少しはつながったのではないかと考える。

教員の授業改善に向けて (II) の項目を見ると、「各回の授業内容は明確だった (II1)」と「教員の伝え方はわかりやすかった (II2)」の項目は、共に総合系科目の平均値よりも高いことから、受講生から比較的高い評価を得ていると思われる。

学生が授業に期待するもの (III) の項目を見ると、「この授業を受けて満足した (III3)」の項目の値が 4.37 で総合系科目の平均値より高い値を示しており、受講者の満足度は比較的高かったものと推察される。

今年度は全面的にオンラインで授業が行われたが、オンライン授業で得られた今回のアンケート結果の値と、昨年度の対面での授業で得られたアンケート結果の値を比較すると、各項目の平均値が改善されているが、特に「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (I2)」の値は 0.90 から 1.20 に 0.30 改善されていた。これらのアンケート結果に加え、受講生からのコメントや担当教員の所見を見ると、準備が不十分な状態で始まったオンライン授業で教員と受講生の両方で戸惑いつつも努力して授業が遂行されたことがうかがえる。学生からコメントの中には「課題の出し方」、「通信環境が悪いときの対応」などの問題点を指摘する意見もあった。

6) 知識の現場 (FV)

総合系科目の平均値に比べて、各項目の評価は昨年度同様に非常に高い。ほとんどの授業が定員を設けた少人数科目で、学習意欲の高い学生が集まっていることを割り引いても、授業以外での学習時間 (I2) は 3.58 時間、授業満足度 (III3) は 4.77、と極めて良好な結果となっている。また「この授業から得ることができたもの (III1)」では、「自分にとって新しい考え方・発想」が 95.1、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 61.0、「自分で調べ考える姿勢」が 62.2 と、いずれも「多彩な学び 1~5」を大きく上回る数値となっている。

特に GLP 科目は、授業以外の学習時間が群を抜いて高いことから、学生負担の大きい科目であることが読み取れる。その一方で、そういった学生たちの努力に対して、科目担当者がしっかり応答していることが所見票から伝わってくる。学生と教員が双方向で積極的に

かわり、良好に運営されていることから、満足度も大変高いことが総合評価から読み取れる。単位数の上乗せを望む声上がるのも、当然の成り行きかもしれない。

4. 今後の改善に向けて

集計データからみられる総合系科目の評価は、昨年度同様に今年度も全般的に上昇している。これは全学共通科目に携わる、すべての教職員による努力の成果であるといえる。しかしながら、今年度の集計データの分析結果からは、引き続き改善すべき課題も明らかにされている。

まずは、2020年度同様、2021年度も「回答者数」および「回答率」のさらなる向上が課題として位置づけられる。とくに、「回答率」の低さについては、早急に改善策を講じる必要がある。つづいて、オンライン授業を前提とする「教員の伝え方」については、大きな課題として位置づけられる。こうした課題解決に向け、教員側が取り組むべきと考えられる対象は多岐にわたる。たとえば、Google Meet や Zoom といった Web 会議システムの操作習熟度の向上はもとより、オンライン授業だからこそ可能な映像視覚教材の大胆な活用、従来であれば参画が難しかった遠隔地のゲストスピーカー招聘など、「教員の伝え方」の改善に向けた創意工夫の余地は多く残されている。また、オンライン授業そのもののデメリットとして、教員と学生との双方向性の確保の難しさが挙げられるが、これに対しては教員側からのきめ細やかな学生対応が必須である。教員側の負担増につながる可能性も高く、一律に推奨すべきものではないが、教員個々人が可能な範囲内で、受講学生一人ひとりへの配慮を心掛けることが望まれる。こうした教員による取り組みについては、大学としてのサポート体制の整備も重要である。

このように 2020年度同様に 2021年度も、改善すべき課題は多岐にわたっているが、大学全体が一丸となって課題解決に向けた取り組みを続けていく必要がある。

4-13 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目

1. 科目選定方針とねらい

全学共通科目・言語系科目については、2019年度まで全学共通カリキュラム運営センターおよび日本語教育センターで独自でアンケートを実施していたが、2020年度より「学生による授業評価アンケート」実施対象に加わった。これまで、日本語を除く言語は、1教員1科目の原則でアンケートを実施していたが、Web方式への変更により全科目で実施可能になったことを受けて、原則として全科目を対象に実施した（春学期は実施なし、秋学期880科目）。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2020年度の全学共通科目・言語系科目の「履修者数」は18,770名、そのうちアンケートの「回答者数」は12,559名、「回答率」は66.9%であった。

全学共通科目・言語系科目の「設問項目別平均値」を見ると、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）（I2）」をのぞいたすべての項目で4を超えており、全般的な授業への満足度の高さが伺える。一方、（I2）の平均値の低さは毎年見られるものである。オンライン授業で授業外の課題が多かったと評される（学生の意見による）2020年度であっても2.03という結果であったこと、さらにこの設問のみ「回答者」が8,754名と回答者数全体の70%程度であることも注視すべきであるが、言語の学習においては授業内での学習だけで高度な能力を養成することは困難であるため、今後も継続的に授業外での学習を促していきたい。

「この授業を通して向上した能力はなんですか（IV4）」では、言語全体の平均値を見ると読む・書く・聞く・話すの4技能についてバランスの取れた能力向上となっている。しかし、言語別に見ると言語Aの必修科目・自由科目、言語Bそれぞれにおいて向上した能力にばらつきがあることが分かる。

3. 各言語教育研究室総評

<英語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「オンライン授業であっても他の学生と知り合うことができ、楽しくコミュニケーションを取ることができた」という学生の意見が多く、各教員が授業運営においてさまざまな工夫を凝らし、対面授業と遜色のない授業の展開を実現していたことが確認できる。教員の所見票では、オンライン授業の運営の難しさも言及されていたが、評価・意見を肯定的に受け止め、励みに捉えており、オンライン授業だけでなく、今後の対面授業でも参考にしたいと意欲を示した所見が多く見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2020年度のオンライン授業は、ほぼ全教員にとって初めての取り組みで、試行錯誤で取り組んだが、技術的な対応が不十分な点もあった。また、学生より「課題の量が多かった」および「課題の説明が不十分であった」という意見が顕著であった。しかし、適切な量の課題や明確な指示は対面授業でも共通する点である。教員が学習到達目標を学生に常に明示

し、学生の理解度や課題の取り組みについて適切に把握することは、効果的な授業運営には不可欠である。

＜ドイツ語教育研究室＞

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

必修科目(ドイツ語基礎)では統一の教科書を使用しているため、各回の授業で使用できるパワーポイント資料を研究室主体となって作成したことを受け、「この授業でよいと思った点はありますか(Ⅱ3)」の項目の結果の上位に、③パワーポイント(56.0)、②板書(電子媒体のものを含む)(40.4)、①配付資料(授業のレジュメなど)(37.3)があげられていた。担当教員からは、資料への工夫や改善を試みることで、映像資料などの副教材・補助教材の導入などの今後の運営における具体的な提案があった。学生の意見は全体的には肯定的なコメントが多かったが、課題が多かったこと、グループワークが過度に多かったり、長かったりするなどの指摘もあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

研究室全体で、年間を通じて学生と教師間での大きなトラブルもなく、オンラインのみで行った授業運営を比較的高い評価で終えることができてよかった。課題については担当者ごとに異なると思われるので、良いことも悪いこともすべて、研究室全体での共有事項とし、それぞれの工夫や改善方法案をお互いに情報交換することで教員としても学び合う場を設ける。それによって全体で支え合う環境をより強固なものにすることができ、自然と授業改善へとつながることが期待される。

＜フランス語教育研究室＞

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

試行錯誤で教材を準備し、オンラインの特性を有効的に活用するために改良を重ねた、とする記載が多かった。「オンライン授業という環境のなかで、いかに双方向的なコミュニケーションを成立させるか工夫したい」という今後の課題点について触れたものも多い。「向上した能力はなんですか(Ⅳ4)」というアンケート項目では、「話す力」という回答が「読む力」や「書く力」に比べて低かった。その解決策として「シチュエーション別のフランス語会話の時間を設ける」などの改善案も示された。また、PCの操作等のテクニック習得もオンライン授業では不可欠となるため、次年度への改善点として引き続き取り組んでいくとする所見も多かった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2020年度には研究室で、会話文の練習を中心とする補助教材を作成した。オンライン授業の課題として浮き彫りになった「話す力」の底上げが今後の課題となるため、研究室主催のFDを通して補助教材の有効的な活用を模索し、2021年度も引き続き教材開発に努めてゆきたい。

<スペイン語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

授業運営に対する試行錯誤が伝わる。まず、効果的にペアワークを行うことの難しさがあげられる。教員が各ブレイクアウトルームを観察できないため、時間が適切かの判断、きちんとアクティビティを行なっているかの確認ができず、学生からも賛否さまざまな意見があがっていた。そして、発音練習の難しさ、聞く力と話す力をどう伸ばしていくかも課題である。一方で、映像や音楽を利用し、スペイン語やスペイン語圏への学生の興味を喚起することができた。また、オンラインであったことで、質問のしやすい雰囲気を作ることができたという意見もあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

オンラインの利点は今後も活かしていきたい。しかし「場所」としての授業の役割も痛感した。オンライン授業がつづくようであれば、学生間・学生と教員との交流が少なくなるのが欠点なので、授業時間内のカメラオンの時間を一定程度設ける等の工夫が必要になってくるだろう。教員のさらなる IT リテラシー向上も不可欠である。また基本的なことではあるが、オンライン授業支援システム Blackboard や立教時間などの学習提示装置の基本機能（学習資料の提示、テストの提示と回収・採点・返却）や各回のポイント等の明示を教員全員が実践していく必要がある。

<中国語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

中国語必修科目では春学期はクラス別ではなく、履修グループごとにオンラインの一方方向授業を実施した。秋学期はクラスごとにオンラインの双方向授業となったが、学生からの回答では少人数の双方向授業の方が評価が高かった。また科目担当者の通信環境の問題や、授業に積極的でない学生がいることでグループワーク、ペアワークに支障が出るケースなどが指摘されている。授業内で使用したスライドを復習用にデータとして Blackboard にあげてほしいという学生からの意見も多く寄せられた。課題に対するフィードバックも丁寧であった、もう少し詳細にしてほしいと、クラスによって回答に差が見られた。授業の進度が速いという指摘もかなり見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

中国語では引き続きペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を実践していく方針である。オンラインであるかどうかを問わず、クラス全体が積極的に授業に参加できる取り組みを模索していきたい。また授業外学習の時間は決して増えておらず、この点は継続して課題となる。2020年度より基礎科目では新しいテキストを導入したが、アンケート回答の自由記述に見られた、「説明文が少ない」や「ピンイン表記がほしい」といった点は、補助教材を研究室で作成することで改善を図りたい。

<朝鮮語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員から今年度の経験を次年度に活用していけるようにしたいという前向きな総括をいただいた。よかった点と改善点は、裏表の関係にあるものが多かった。例えば、コミュニケーションスキルを身につけるために少人数のグループワークを多用したところ好評だった、しかしグループが増えるほど各グループの指導に割く時間が短くなってしまったため、説明と指導が不十分になってしまったという意見である。また、オンラインの性質(顔が見える、声が聞こえやすい)を生かしコミュニケーション練習に時間を割いたところ、会話のインプット力は伸びたが作文のインプット力は例年以下であったという意見もあった。学生からの意見はおおむね肯定的な意見が多く、肯定的にせよ否定的にせよ、強く伝えたいことがあったということであり、書いてくれたこと自体に謝意を示したい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

担当教員から、オンライン授業について、順調に進められる分、単調になりがちという振り返りや、筆記や記憶に頼る試験だと不正を完全に防ぐことは難しいという意見があった。いずれも、語学教育に限らずオンライン教育がもつ課題であり、分野をまたいで方法を考える必要がある。また、継続学習への意欲を高めていきたいという意見もあった。現在、大学で教鞭をとっている世代の高等教育と比べ、外国語教育の質は向上し意義も深まっている。大学全体、社会全体として外国語を学ぶことが自然であるような、そうした雰囲気を作っていければよいと考えている。

<諸言語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

オンライン導入ということで、授業内容への記述のみだけでなく、教材の提示方法や Blackboard の活用に触れるものが多かった。オンライン授業を受講する学生の要望を受けて、リアクションペーパーの共有方法を改善するなど、今後のオンライン授業に向けた具体案が挙げられていた。オンライン授業に適した教材開発などの取組み、当該言語への関心を授業外で高める工夫についても触れられており、それらが結果として受講生の高い継続学習意欲につながったものと思われる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

新型コロナウイルス感染拡大で延期になった検定試験への挑戦を促してゆくなど、学習時間の底上げについて努めて取り組んでゆく。また PC 操作等のテクニック習得はオンライン授業では欠かせないため、教員側が経験値を積んでゆくことで引き続き改良に努めてゆく。

<日本語教育研究センター>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員の所見から、全体的な傾向として、学生が各科目のねらいを理解し、積極的に学習に取り組んでいたことがわかる。特に、教員からのフィードバックについての評価は、ほぼすべての科目で高かったことがわかった。言語 B「大学生の日本語」で新しい学習活動と

して取り入れたグループ発表について、肯定的な評価を確認することもできた。改善すべき項目として、配付資料、板書、映像視覚教材を挙げている学生が数名おり、教員からはオンライン授業への配慮として対面時よりもパワーポイントの説明の内容、提示の仕方を工夫したいというコメントが複数あった。また、数名の学生からの課題が多いという声に対しては、今後の工夫していきたい旨記載があった。自由科目では、授業内で扱う話題選定の際、さらに学生のニーズを探りたいといった振り返りもあった。

1) 所見票に現れた学生の意見(記述による評価)の集約

教員の丁寧な説明、フィードバックに対する肯定的評価が見られた。またプレゼンテーションのしかた、表現などがほかの科目でも使用できたというコメントがあり、学習したことを応用し、学習成果を確認した学生がいることがわかった。授業内でのディスカッションについては全体として肯定的に評価されており、もっと時間を割いてほしいという声も確認した。今年度はオンライン授業ならではのコメントが目立つ。オンライン授業だったが担当教員の個性によるのかコミュニケーションがしやすかったというもの、配信状態が悪いことがあった、学生はカメラに映るのが苦手だといったもの等である。

2) 上記1) に対する担当教員の所見のまとめ

学生からの肯定的な意見を励みにするコメントとともに、授業形態(オンライン授業)に関連した振り返りが多く見られた。上記1)に関連する内容としては、学生が視覚的にも理解できるように、Zoomの機能を活用するなどして工夫をした、オンライン授業は資料に頼る部分が多いので、内容に加え提示の仕方も工夫も重ねたいといったものである。課題のやりとりもすべてオンラインに切り替わったことで、Blackboardに関する振り返り(課題内容がより明確に伝わるようなタイトルをつける)もあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

視覚教材の提示方法、課題の指示などについての改善に関するコメントが多い。今後もオンラインを活用した授業が続くことを念頭において、具体的な改善をしていきたい。新しい取り組みに対する学生の肯定的な評価を受け、発展的に取り組みたい方向も確認できた。

4. 今後の改善に向けて

すべての言語系科目において、オンラインであろうと対面であろうと、その授業の目指す能力向上が期待される。とりわけ必修科目については4技能のバランスの良い養成が望まれる。このような授業の内容面に関する課題は、これまでも指摘されてきたことであるが、数値の偏りが顕著な言語研究室では、それを一つの指標として今後のカリキュラム改革につなげていかなくてはならない。また、2020年度を経て、担当教員にはオンライン対応という授業の運営面でのスキルも大前提として求められるようになった。今後の授業展開方法にさまざまな可能性が広がった分、授業の内容面はもちろん運営面でも対応できる教員育成が不可欠であり、充実したFDの実施が必須となる。運営面でのFDは各言語研究室を越えて実施可能であろう。さらに、学生の授業外学習をどのように捉えるかという点も考えて行かなくてはならない。自分たちの行う教育が常に全学共通科目・総合系科目や学部教育と有機的に関わっているのだという自覚を持ちつつ、学生とコミュニケーションをとりながら、最大多数の最大幸福を目指していくのが一つの案であろう。

4-1-4 学校・社会教育講座

1. 科目選定方針とねらい

例年、学校・社会教育講座（以下、講座）の授業評価アンケートは、教職課程においては原則として講義科目を対象とした1教員1科目、他の課程においては重点的科目に焦点を当て、数年でより広い科目を網羅すべく、各課程での工夫を凝らしながら実施されている。また、原則として履修者が5名以下の授業に関しては、実施を見合わせることにしているが、最終的には各課程や授業担当者の意向を尊重し、判断されている。各年度の持続的な評価を蓄積することにより、個々の授業の特質を改めて見直すことが可能になるとともに、履修者の意見などを考慮し、より質の高い、履修者の学修へのニーズに即した授業の提供へつなげることをねらいとしている。

なお、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い、春学期の授業評価アンケートは中止となり、秋学期のみ教職課程、学芸員課程、社会教育主事課程を対象に実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

前述の理由により、2020年度における講座の調査対象科目は、秋学期の合計26科目となった。履修者数は1,032名、延べ回答者数は562名、回答率は54.5%であった。回答率は、今回の調査対象となった学部全体の回答率の45.8%と比較し、やや高めの結果が得られた。また、回答者の学年は、1年生が264名、2年生が198名、3年生が78名、4年生が17名、その他が5名となっており、昨年度同様に、下の学年ほど回答者が多いという講座の科目の傾向が読み取れた。その理由のひとつとして、1、2年次には講義を中心とした科目を、3、4年次には実習や演習系の科目をという、学生の履修方法の影響が考えられる。今回、講座で対象となった26科目のうち、半数以上が講義を中心とした科目であったため、特に1年生の回答者が多いという自然な結果であったといえよう。

I「学生の学習姿勢」では、「この授業に積極的に参加した」が4.25であり、授業形態が対面であっても、オンラインであっても、真摯に学ぼうとしている履修者の姿勢を読み取ることができた。履修者の免許状や資格取得に向けた、高い動機づけと判断できる。一方、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」に関しては、1.30となっていた。昨年度のこの項目の平均値が0.89であったことから、履修者が授業で興味や関心を抱いた内容に対し、各々の学科専修での学習の時間に加え、主体的な学びを進めていたことが推察される。履修者の負担を考慮しつつ、適度な質と量の課題を設定し、より興味関心を抱ける内容を紹介するなどの工夫を、今後も継続していきたい。

II「教員の授業改善に向けて」では、「各回の授業内容は明確だった」、「教員の伝え方はわかりやすかった」の項目において、それぞれ4.35、4.27という高い評価が得られていた。担当教員の各回の授業における準備やプレゼンテーション、創意工夫が充実していた様子がうかがえる。具体的には、II3「この授業でよいと思った点はありますか」の項目において、講座全体では、「配付資料（授業のレジュメなど）」の67.1%と、「パワーポイント」の40.9%が、回答者が高く評価していた項目であった。なお、それ以外をたずねたII4の自由記述に関しては、多くの回答がオンライン授業におけるグループワークやディスカッションの活用についてのものであった。また、質問に対し、チャットなどの機能で即時に対応している点なども履修者はポジティブにとらえている様子が見えられた。

引き続き、これらの授業内容が維持されるとともに、各担当教員のさらなる検討が期待される。

Ⅲ1「この授業から得ることができたものはありますか」では、講座全体では、「自分にとって新しい考え方・発想」が 65.1%、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 67.8%で高い数値を示していたものとなっていた。Ⅲ2の自由記述に関しては、Ⅱ4と同様にオンライン授業におけるグループディスカッションに関する内容が大半であり、回数を重ねることによりディスカッションへの自信を深めたり、スキルの向上を感じたりしたという回答が得られていた。担当教員のオンライン授業におけるグループディスカッション等に向けた準備が充実していたことが推測される。

また、「授業規模別平均値」に関しては、今回講座内で対象となったほとんどの科目が 50名以下のものではあったが、Ⅰ1「この授業に積極的に参加した」、Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」、Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」の項目は 4.25～4.38 の数値を示していたことから、高い水準を保つものであったと判断できる。

「学年別平均値」に関しては、Ⅱ3「この授業でよいと思った点はありますか」では「動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）」、Ⅲ1「この授業から得ることができたものはありますか」では「自分にとって新しい考え方・発想」、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」などにおいて、上の学年になるにつれ高く評価する傾向が見受けられた。ここから、講座の授業だけではなく、各々の履修者がこれまでに受講してきた授業で構築してきた知識や技術を基に、さらに専門的知識を得るべく、自発的に学びを深めようとしている様子を読み取ることができる。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員がオンラインでの開講であったため、少なからずの不安を抱えつつのスタートであったものの、授業資料の再検討やパワーポイントの工夫などを見直すことによって、履修者の興味関心を惹きつけていた様子がうかがえた。また、オンライン授業でありながらも、履修者とのコミュニケーションを重視し、リアクションペーパーやコメントシートなどを活用し、対面授業に近い双方向コミュニケーションの構築に尽力していた様子が散見されていた。特に、「自分にとって新しい考え方・発想」や「自分で調べ考える姿勢」で高い評価を得られ、今後の授業へのモチベーションを高めている教員のコメントも散見された。

1) 所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

履修者の肯定的な意見としては「グループワークで他の学生たちと意見交換ができた」、「学生同士でコミュニケーションを図る場が提供されていた」、「チャットなどで教員に適宜質問ができ、その応答も迅速であった」などの、オンライン授業に関する内容とともに、「紹介された動画や公式サイトに興味を抱くものであった」、「教員からのフィードバックが適切でモチベーションの維持につながった」などが挙げられていた。

2) 上記1) に対する担当教員の所見のまとめ

多くの教員が初めてオンライン授業を担当することとなり、混乱があったことが十分に

推察されるものの、オンライン授業に向けた準備や、Zoom のブレイクアウトルームの活用、チャットを活用した迅速な質疑応答、履修者が興味関心を抱けるような動画等の準備などにより、想像をはるかに超える工夫がなされていた様子を読み取ることができる。また、履修者へのサービスが十分に提供できていたことに対し、安堵したという意見も寄せられるとともに、教員自身が、コンテンツの工夫により、授業内容を充実させる方法を獲得していた意見も見ることができた。また、リアクションペーパーに関しても、オンラインでの提出となったことから、履修者からの指摘や質問等が増えたという見解も示されていた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

どの教員からも、履修者の肯定的意見を受け止め、引き続き魅力のある授業への工夫に活用していく点が示されていた。一方、改善点においては、授業環境や授業資料、さらには授業の時間配分などに対し、今後の展望や提案が寄せられていた。履修者からの声に対し、改善点に関しては、具体的なアクションにより、対応していく様子がうかがえた。

4. 今後の改善に向けて

今回、講座でアンケートの対象となった科目に関しては、一定以上の履修者からの高い評価が得られていたと判断している。そのため、高いモチベーションを抱きつつ、受講している履修者のニーズや理解度にも、十分に答えることができたのではないかと考えている。

今回のアンケートは、対象となった科目の多くがオンライン形式であったため、授業担当教員のみならず、履修者の通信環境の問題に関して触れられていた記述も見られた。現在の社会的情勢においては、このオンラインでの環境を確実強固なものとするにはやや厳しいかもしれない。しかし、双方で可能な範囲での準備を進めること、そしてアクシデント等が発生した際の、次の展開を検討しておくことで、この問題はある程度解消されることが期待される。どのような方法での授業展開であっても、履修者のモチベーションを受け止め、そして興味関心を抱き、新たな発想や発見につなげていく。引き続き、そのような授業の提供が検討されることを期待する。

5. 2020年度のまとめと今後の展望

大学教育開発・支援センター

TL (Teaching&Learning) 部会長 幡野 弘樹

1. はじめに

以下では、全学共通カリキュラム運営センターや学校・社会教育講座を含めた各学部の総評をもとに、2020年度の授業評価アンケートのまとめおよび今後の展望を行うこととしたい。

大学教育開発・支援センターでは、より良い授業を行うことができるよう、データを分析するとともに授業を改善するためのさまざまな手法の提案を行っているが、毎年の授業評価アンケートは、まさに上記の活動を行うにあたって最も貴重な基礎資料となっている。そこで、学生の皆さん、教員の方々をはじめとして本学の授業評価アンケートに携わったすべての方々にお礼を申し上げたい。

2020年度は、学生にとっても教員にとっても、コロナ禍が大学での学びに深刻な影響を与えた特別な1年であった。今回各学部が行った総評の元となる授業評価アンケートは、秋学期を対象としたものである。すなわち、手探りでオンライン授業に取り組むこととなった春学期を受けて、学生も教員もそれぞれ一定の経験を踏まえて臨んだ学期でのアンケートが元となっている。そこには、1年の経験を踏まえた上でのオンライン授業の成果と課題が、学生、教員それぞれの視点から示されている。以下で行うまとめと展望も、単なる特別な過去の記録ではなく、オンライン授業という我々が得た新たなオプションの長所・短所を示すものとして、将来に生かせるものであると思われる。

必ずしも網羅的ではないが、オンライン授業の成果と課題という2つの観点から各学部の総評を整理したいと思う。

2. オンライン授業の成果

ほぼすべての学部で、学生の満足度が高かったことが指摘されている。また、ほぼすべての学部で学生の学習姿勢のポジティブな変化、とりわけ自習時間の増加に関する指摘があった。これらの点を本学でのオンライン授業の成果として挙げることができる。

これには、さまざまな要因があるものと思われる。

学生の満足度の高さについては、Zoomなどのチャット欄やリアクションペーパーを通じて教員・学生間の双方向性を確保したことが一つの大きな要因となっているであろう。この点は、2019年度以前の授業評価アンケートにおいても、学生の高い評価を与える大きな要因となっていたものである。配布資料がより充実したものとなったこと（多くの学部が指摘する）や、録画された資料を複数回参照できるようになったこと（法）など、オンライン授業をきっかけとして、学生の利便性が増したことも背景にあるであろう。

自習時間の増加については、成績評価がレポート試験で行われる授業やリアクションペーパーの提出を求める授業が多くなったことにより積極的に自ら調べ、発信することが求められたことが大きな要因となっているであろう。また、先に紹介した録画された授業を複数回参照できるようになったという利便性も影響しているであろう。

学生の満足度の高さ、自習時間の増加、双方の要因と考えられるものとして、2020年度

よりアンケートが Web 方式で行われたために全体的に回答率が低くなっており、授業をポジティブに評価する履修者の回答がより強く反映されているのではないかという指摘も複数の学部から出されている（経営、コミュニティ福祉、全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目）。このような点にも注意をする必要があるとともに、Web 方式のアンケートでも回答率を上げる方策について検討が必要である。

3. オンライン授業の課題

ここでは 2 点の指摘をしたい。

第 1 に、複数の学部で、自分で調べ考える姿勢という項目の数値が相対的に低いという指摘をしている（文、経営、現代心理など）。これにもさまざまな要因が考えられる。図書館へのアクセスに制約があったことも一つの要因になっているであろう。配布資料が充実し、必要な情報が学生の手元にある状態が作られたことが、かえって自ら調べるという意欲を減らすことになってしまったのかもしれない。もっとも、2020 年度については教員側が自ら調べを求めづらいう状況があっただけであり、オンライン化と必ずしも直結しない可能性もある。いずれにせよ、このような課題があることを念頭に置く必要はあろう。

第 2 に、学生同士での学習機会の減少という指摘も一部の学部等で提示されている（理の学部からの設問、全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目）。もちろん Zoom などにはブレイクアウトセッションの機能が備わっており、多くの学部で学生間のコミュニケーション手段として有用であると指摘されているところではあるが、学生が自らの顔を見せることに抵抗がある場合もある。また、授業以外の場で学生が共同で調べるといった機会は減少していたであろう。やはりキャンパスでの学生間の交流には、かけがえのない意義があることを指摘するものであるといえよう。

4. おわりに

各学部からの総評を読み、コロナ禍でもより良い学びを学生に提供しようという個々の教職員の努力がこのような高い評価を生んだとの印象を持った。もちろん、これで満足をするのではなく、我々は不断の努力をしなければならない。大学教育開発・支援センターとしても、より良い教育を求めるニーズに対して時宜に適った形で支援を行えるよう努力していきたい。

6. 2020 年度集計データ（資料編）

6-1 回答者数・回答率

延べ回答者数 37,044 名

表1 学部等別履修者数と回答者数、および回答率

科目開設学部等	履修者数	回答者数	回答率
文学部	4,943	2,208	44.7%
経済学部	3,396	1,862	54.8%
理学部	3,244	1,445	44.5%
社会学部	6,937	1,828	26.4%
法学部	2,779	745	26.8%
経営学部	6,004	1,926	32.1%
異文化コミュニケーション学部	231	112	48.5%
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	248	137	55.2%
観光学部	5,411	2,005	37.1%
コミュニティ福祉学部	1,955	1,045	53.5%
現代心理学部	2,076	1,071	51.6%
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	23,929	9,539	39.9%
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	18,770	12,559	66.9%
学校・社会教育講座	1,032	562	54.5%
合計	80,955	37,044	45.8%

注1) 履修者数・回答者数は、アンケート実施科目の延べ履修者、回答者

注2) 学部等は、アンケート実施科目の開設学部により分類した

表2 学部等別学年別の回答者数

科目開設学部等	1年	2年	3年	4年	その他	合計
文学部	1,106	684	299	116	3	2,208
経済学部	1,765	63	21	13	0	1,862
理学部	685	460	241	56	3	1,445
社会学部	589	697	420	122	0	1,828
法学部	220	197	200	127	1	745
経営学部	585	649	519	166	7	1,926
異文化コミュニケーション学部	12	69	24	7	0	112
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	26	49	59	3	0	137
観光学部	621	700	508	173	3	2,005
コミュニティ福祉学部	281	464	259	41	0	1,045
現代心理学部	546	296	169	59	1	1,071
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	4,668	2,598	1,611	654	8	9,539
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	11,065	807	396	283	8	12,559
学校・社会教育講座	264	198	78	17	5	562
合計	22,433	7,931	4,804	1,837	39	37,044

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 学年は、当該学部等で実施したアンケートに回答した学生の学年を示す（その他：本学学部生以外）

注3) 学部等により実施科目の選定方針が異なるため、学年の偏りがある

6-2 学部等別設問項目別平均値・回答割合

表3-1 文学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	2,196	4.25	0.75
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,512	1.67	2.12
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	2,204	4.36	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	2,201	4.23	0.84
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	2,206	4.27	0.82

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表3-2 文学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	2,208
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2,180 ^{*1}	98.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,313	59.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	272	12.3%
③パワーポイント	562	25.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	417	18.9%
⑤シラバス	170	7.7%
⑥上記にあてはまるものがない	251	11.4%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	274 ^{*2}	12.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,838 ^{*1}	83.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	285	12.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	107	4.8%
③パワーポイント	116	5.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	85	3.8%
⑤シラバス	55	2.5%
⑥上記にあてはまるものがない	1,321	59.8%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	211 ^{*2}	9.6%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2,200 ^{*1}	99.6%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,141	51.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,382	62.6%
③自分で調べ考える姿勢	698	31.6%
④学問的興味	962	43.6%
⑤上記にあてはまるものがない	64	2.9%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	85 ^{*2}	3.8%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 4-1 経済学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,834	4.19	0.79
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,208	1.72	2.11
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,855	4.13	0.88
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,855	3.98	0.99
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,855	4.00	0.95
IV 学部等による設問			
IV1 (基礎ゼミナール2) 経済文献を読む力がついた	399	3.91	0.88
IV2 (基礎ゼミナール2) レジюмеやレポート作成の力がついた	401	4.30	0.80
IV3 (情報処理入門2) 表計算ソフト (Excel) の応用力が身についた	316	4.09	0.82
IV4 (情報処理入門2) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた	318	3.73	1.04
IV5 (情報処理入門2) WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた	318	4.01	0.86

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 4-2 経済学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,862
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,833 ^{*1}	98.4%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	997	53.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	237	12.7%
③パワーポイント	612	32.9%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	221	11.9%
⑤シラバス	93	5.0%
⑥上記にあてはまるものがない	272	14.6%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	227 ^{*2}	12.2%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	1,673 ^{*1}	89.8%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	227	12.2%
②板書 (電子媒体のものを含む)	160	8.6%
③パワーポイント	110	5.9%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	114	6.1%
⑤シラバス	59	3.2%
⑥上記にあてはまるものがない	1,138	61.1%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	222 ^{*2}	11.9%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,852 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	491	26.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,258	67.6%
③自分で調べ考える姿勢	494	26.5%
④学問的興味	470	25.2%
⑤上記にあてはまるものがない	94	5.0%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	83 ^{*2}	4.5%

注1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表5-1 理学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,432	4.17	0.80
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,028	1.78	1.99
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,441	4.31	0.73
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,442	4.11	0.90
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,435	4.11	0.85
IV 学部等による設問			
IV1 シラバスに沿って授業が行われた	1,436	4.32	0.66
IV2 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた	1,439	4.16	0.86
IV3（1年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた	462	3.86	0.97
IV4（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった	728	3.23	1.39

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表5-2 理学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,445
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,430 ^{*1}	99.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	893	61.8%
②板書（電子媒体のものを含む）	424	29.3%
③パワーポイント	417	28.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	179	12.4%
⑤シラバス	65	4.5%
⑥上記にあてはまるものがない	104	7.2%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	214 ^{*2}	14.8%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	1,208 ^{*1}	83.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	180	12.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	124	8.6%
③パワーポイント	53	3.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	70	4.8%
⑤シラバス	34	2.4%
⑥上記にあてはまるものがない	823	57.0%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	183 ^{*2}	12.7%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,433 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	550	38.1%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,108	76.7%
③自分で調べ考える姿勢	412	28.5%
④学問的興味	560	38.8%
⑤上記にあてはまるものがない	41	2.8%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	40 ^{*2}	2.8%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表6-1 社会学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,816	4.16	0.79
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,221	1.34	2.06
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,826	4.28	0.78
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,823	4.13	0.90
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,823	4.24	0.84

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表6-2 社会学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,828
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,807 ^{*1}	98.9%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	1,088	59.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	172	9.4%
③パワーポイント	691	37.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	535	29.3%
⑤シラバス	103	5.6%
⑥上記にあてはまるものがない	109	6.0%
II 4 II 3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	236 ^{*2}	12.9%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	1,546 ^{*1}	84.6%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	239	13.1%
②板書 (電子媒体のものを含む)	98	5.4%
③パワーポイント	123	6.7%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	104	5.7%
⑤シラバス	40	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	1,068	58.4%
II 6 II 5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	227 ^{*2}	12.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,815 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,111	60.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,106	60.5%
③自分で調べ考える姿勢	293	16.0%
④学問的興味	868	47.5%
⑤上記にあてはまるものがない	36	2.0%
III 2 III 1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	69 ^{*2}	3.8%

注1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表7-1 法学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	736	4.18	0.77
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	459	1.77	2.83
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	744	4.32	0.80
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	742	4.13	0.98
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	743	4.20	0.82
IV 学部等による設問			
IV1 このオンライン授業は受けやすかった	742	4.13	0.97
IV2 このオンライン授業で出された課題の量は適切だった	740	4.15	0.85

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表7-2 法学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	745
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	740 ^{*1}	99.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	416	55.8%
②板書（電子媒体のものを含む）	73	9.8%
③パワーポイント	317	42.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	117	15.7%
⑤シラバス	47	6.3%
⑥上記にあてはまるものがない	85	11.4%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	137 ^{*2}	18.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	645 ^{*1}	86.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	112	15.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	64	8.6%
③パワーポイント	73	9.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	30	4.0%
⑤シラバス	19	2.6%
⑥上記にあてはまるものがない	425	57.0%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	106 ^{*2}	14.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	738 ^{*1}	99.1%
①自分にとって新しい考え方・発想	252	33.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	542	72.8%
③自分で調べ考える姿勢	132	17.7%
④学問的興味	304	40.8%
⑤上記にあてはまるものがない	14	1.9%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	32 ^{*2}	4.3%
IV 学部等による設問		
IV3 このオンライン授業について改善すべき点があれば記入してください。（自由記述）	57 ^{*2}	7.7%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 8-1 経営学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,904	4.19	0.80
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,262	1.44	1.83
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,915	4.23	0.83
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,917	4.08	0.94
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,920	4.16	0.91

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 8-2 経営学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,926
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,897 ^{*1}	98.5%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	1,095	56.9%
②板書 (電子媒体のものを含む)	215	11.2%
③パワーポイント	843	43.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	298	15.5%
⑤シラバス	119	6.2%
⑥上記にあてはまるものがない	159	8.3%
II 4 II 3 以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	238 ^{*2}	12.4%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	1,731 ^{*1}	89.9%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	279	14.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	126	6.5%
③パワーポイント	243	12.6%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	118	6.1%
⑤シラバス	94	4.9%
⑥上記にあてはまるものがない	1,077	55.9%
II 6 II 5 以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	241 ^{*2}	12.5%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,912 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	834	43.3%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,317	68.4%
③自分で調べ考える姿勢	377	19.6%
④学問的興味	615	31.9%
⑤上記にあてはまるものがない	66	3.4%
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	61 ^{*2}	3.2%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表9-1 異文化コミュニケーション学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	110	4.40	0.65
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	78	2.00	2.43
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	112	4.44	0.65
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	112	4.41	0.73
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	112	4.35	0.81
IV 学部等による設問			
IV1 (宗教と文化、カルチュラルスタディーズ特論、人間環境特論、間文化研究) この授業の受講者数は適切だった	52	4.31	0.83
IV2 (宗教と文化、カルチュラルスタディーズ特論、人間環境特論、間文化研究) レジュメやレポート作成の力がついた	52	3.73	1.03
IV3 (Seminar in English) 異文化コミュニケーション学部の専門領域 (専門的な学び) に対する興味・関心が増した	27	4.48	0.64

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表9-2 異文化コミュニケーション学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	112
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	112 ^{*1}	100.0%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	49	43.8%
②板書 (電子媒体のものを含む)	19	17.0%
③パワーポイント	65	58.0%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	59	52.7%
⑤シラバス	22	19.6%
⑥上記にあてはまるものがない	4	3.6%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	22 ^{*2}	19.6%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	97 ^{*1}	86.6%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	11	9.8%
②板書 (電子媒体のものを含む)	6	5.4%
③パワーポイント	7	6.3%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	6	5.4%
⑤シラバス	4	3.6%
⑥上記にあてはまるものがない	65	58.0%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	21 ^{*2}	18.8%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	112 ^{*1}	100.0%
①自分にとって新しい考え方・発想	75	67.0%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	76	67.9%
③自分で調べ考える姿勢	47	42.0%
④学問的興味	49	43.8%
⑤上記にあてはまるものがない	4	3.6%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	5 ^{*2}	4.5%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表10-1 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	133	4.22	0.81
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	104	2.49	2.37
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	137	4.34	0.84
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	137	4.14	0.99
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	137	4.28	1.01

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表10-2 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	割合 ^{注2)}
	137	
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	136 ^{*1}	99.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	75	54.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	35	25.5%
③パワーポイント	90	65.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	54	39.4%
⑤シラバス	30	21.9%
⑥上記にあてはまるものがない	10	7.3%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	46 ^{*2}	33.6%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	121 ^{*1}	88.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	21	15.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	11	8.0%
③パワーポイント	22	16.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	25	18.2%
⑤シラバス	13	9.5%
⑥上記にあてはまるものがない	62	45.3%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	40 ^{*2}	29.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	135 ^{*1}	98.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	79	57.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	100	73.0%
③自分で調べ考える姿勢	55	40.1%
④学問的興味	71	51.8%
⑤上記にあてはまるものがない	5	3.6%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	19 ^{*2}	13.9%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 1 - 1 観光学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,992	4.20	0.77
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,284	1.28	2.19
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	2,000	4.43	0.69
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,993	4.35	0.78
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	2,001	4.35	0.75

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 1 - 2 観光学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	2,005
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,977 ^{*1}	98.6%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	1,107	55.2%
②板書 (電子媒体のものを含む)	222	11.1%
③パワーポイント	881	43.9%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	503	25.1%
⑤シラバス	101	5.0%
⑥上記にあてはまるものがない	127	6.3%
II 4 II 3 以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	380 ^{*2}	19.0%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	1,673 ^{*1}	83.4%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	261	13.0%
②板書 (電子媒体のものを含む)	80	4.0%
③パワーポイント	103	5.1%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	100	5.0%
⑤シラバス	40	2.0%
⑥上記にあてはまるものがない	1,177	58.7%
II 6 II 5 以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	191 ^{*2}	9.5%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,992 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,097	54.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,242	61.9%
③自分で調べ考える姿勢	376	18.8%
④学問的興味	844	42.1%
⑤上記にあてはまるものがない	44	2.2%
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	81 ^{*2}	4.0%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 2 - 1 コミュニティ福祉学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,041	4.24	0.72
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	690	1.41	2.48
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,044	4.37	0.76
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,040	4.28	0.87
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,045	4.33	0.80

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 2 - 2 コミュニティ福祉学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,045
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,031 ^{*1}	98.7%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	475	45.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	98	9.4%
③パワーポイント	546	52.2%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	368	35.2%
⑤シラバス	57	5.5%
⑥上記にあてはまるものがない	64	6.1%
II 4 II 3 以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	200 ^{*2}	19.1%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	866 ^{*1}	82.9%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	149	14.3%
②板書 (電子媒体のものを含む)	44	4.2%
③パワーポイント	80	7.7%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	41	3.9%
⑤シラバス	33	3.2%
⑥上記にあてはまるものがない	579	55.4%
II 6 II 5 以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	124 ^{*2}	11.9%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,039 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	689	65.9%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	635	60.8%
③自分で調べ考える姿勢	260	24.9%
④学問的興味	403	38.6%
⑤上記にあてはまるものがない	21	2.0%
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	53 ^{*2}	5.1%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 13-1 現代心理学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,066	4.22	0.76
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	746	1.44	2.38
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,071	4.45	0.63
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,068	4.32	0.77
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,063	4.35	0.73
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の受講者数は適切だった	1,069	4.09	0.79
IV2 【オンラインで受講した場合のみ対象】このオンライン授業の運営は適切になされた	1,066	4.41	0.71
IV3 【対面式で受講した場合のみ対象】この授業の設備・環境に満足している	213	4.13	0.88

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 13-2 現代心理学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,071
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,057 ^{*1}	98.7%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	616	57.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	153	14.3%
③パワーポイント	369	34.5%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	553	51.6%
⑤シラバス	63	5.9%
⑥上記にあてはまるものがない	32	3.0%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	165 ^{*2}	15.4%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	912 ^{*1}	85.2%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	90	8.4%
②板書 (電子媒体のものを含む)	52	4.9%
③パワーポイント	30	2.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	71	6.6%
⑤シラバス	28	2.6%
⑥上記にあてはまるものがない	684	63.9%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	105 ^{*2}	9.8%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1068 ^{*1}	99.7%
①自分にとって新しい考え方・発想	634	59.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	770	71.9%
③自分で調べ考える姿勢	178	16.6%
④学問的興味	573	53.5%
⑤上記にあてはまるものがない	11	1.0%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	37 ^{*2}	3.5%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 4 - 1 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	9,459	4.22	0.77
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	6,219	1.30	2.25
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	9,520	4.37	0.72
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	9,505	4.27	0.82
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	9,520	4.33	0.80
IV 学部等による設問			
IV 1 【学びの精神のみ対象】 この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた	721	4.27	0.81
IV 2 【学びの精神のみ対象】 この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた	719	4.03	0.92

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 4 - 2 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	9,539
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	9,458 ^{*1}	99.2%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	5,159	54.1%
②板書 (電子媒体のものを含む)	1,024	10.7%
③パワーポイント	4,012	42.1%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	3,251	34.1%
⑤シラバス	578	6.1%
⑥上記にあてはまるものがない	628	6.6%
II 4 II 3 以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	1,477 ^{*2}	15.5%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	8,151 ^{*1}	85.4%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	1,284	13.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	467	4.9%
③パワーポイント	534	5.6%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	521	5.5%
⑤シラバス	275	2.9%
⑥上記にあてはまるものがない	5,612	58.8%
II 6 II 5 以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	988 ^{*2}	10.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	9,496 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	5,554	58.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	5,374	56.3%
③自分で調べ考える姿勢	1,732	18.2%
④学問的興味	4,533	47.5%
⑤上記にあてはまるものがない	186	1.9%
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	439 ^{*2}	4.6%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 15-1 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	12,420	4.46	0.68
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	8,754	2.03	2.25
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	12,528	4.42	0.73
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	12,510	4.32	0.85
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	12,475	4.29	0.83
IV 学部等による設問			
IV1 宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った	12,501	4.29	0.78
IV2 宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた	12,499	4.27	0.88
IV3 授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた	12,479	4.21	0.81
IV4 その言語の学習を継続したいと思うようになった	12,537	4.03	0.96

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 15-2 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（回答割合）

全有効回答者数 12,559

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	12,369 ^{*1}	98.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	4,083	32.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	2,592	20.6%
③パワーポイント	5,271	42.0%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	2,638	21.0%
⑤シラバス	1,420	11.3%
⑥上記にあてはまるものがない	1,745	13.9%
II4 II3以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	2,249 ^{*2}	17.9%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	10,954 ^{*1}	87.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,117	8.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	716	5.7%
③パワーポイント	465	3.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	518	4.1%
⑤シラバス	329	2.6%
⑥上記にあてはまるものがない	8,405	66.9%
II6 II5以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	1,349 ^{*2}	10.7%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	12,465 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	4,249	33.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	6,508	51.8%
③自分で調べ考える姿勢	5,805	46.2%
④学問的興味	3,071	24.5%
⑤上記にあてはまるものがない	606	4.8%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	880 ^{*2}	7.0%
IV 学部等による設問		
IV4 この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】	12,433 ^{*1}	99.0%
①読む力	5,398	43.0%
②書く力	5,987	47.7%
③聞く力	4,504	35.9%
④話す力	5,937	47.3%
⑤プレゼンテーションをする力	3,158	25.1%
⑥ディスカッションをする力	2,498	19.9%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 16-1 学校・社会教育講座（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	558	4.25	0.72
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	405	1.30	1.91
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	561	4.35	0.82
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	561	4.27	0.86
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	561	4.27	0.84

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 16-2 学校・社会教育講座（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	562
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	559 ^{*1}	99.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	377	67.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	47	8.4%
③パワーポイント	230	40.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	141	25.1%
⑤シラバス	28	5.0%
⑥上記にあてはまるものがない	39	6.9%
II 4 II 3 以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	93 ^{*2}	16.5%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	476 ^{*1}	84.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	79	14.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	26	4.6%
③パワーポイント	31	5.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	22	3.9%
⑤シラバス	12	2.1%
⑥上記にあてはまるものがない	347	61.7%
II 6 II 5 以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	84 ^{*2}	14.9%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	559 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	366	65.1%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	381	67.8%
③自分で調べ考える姿勢	135	24.0%
④学問的興味	202	35.9%
⑤上記にあてはまるものがない	13	2.3%
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	28 ^{*2}	5.0%

注 1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

2020年度「学生による授業評価アンケート」報告書

2021年9月発行

2022年2月改訂

編集 立教大学 大学教育開発・支援センター

発行 立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

TEL 03-3985-4624 FAX 03-3985-4615

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>

e-mail cdshe@rikkyo.ac.jp

